

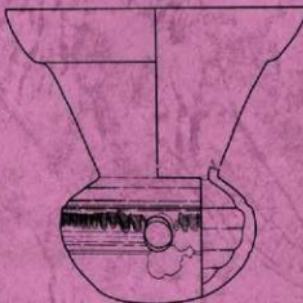
K-535

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第39集

上新田

上新田A遺跡発掘調査報告書

第2集



上新田A遺跡出土物

平成5年3月

1993

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第39集

上新田

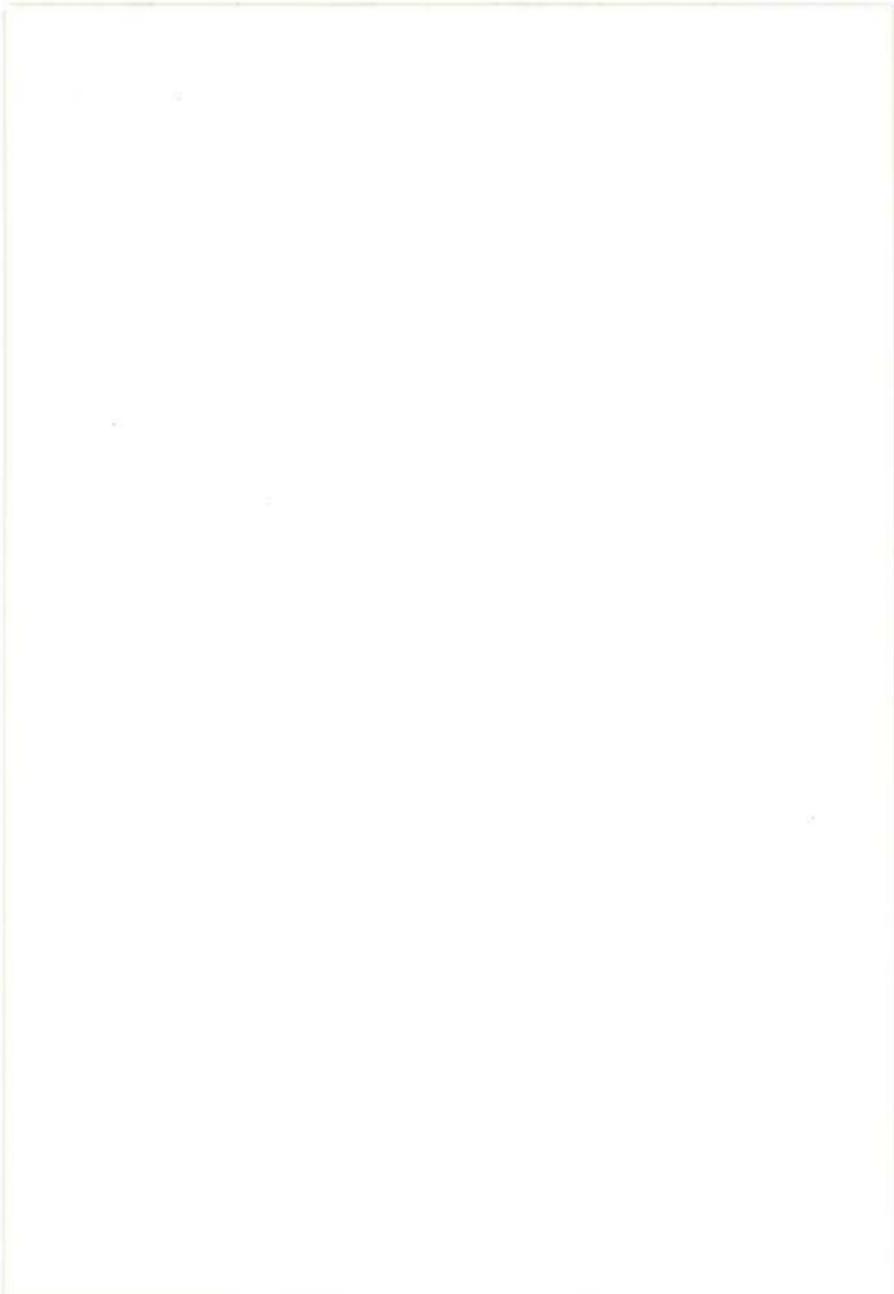
上新田A遺跡発掘調査報告書

第2集

平成5年3月

1993

米沢市教育委員会



序文

本遺跡が存在する上郷地区は戸塚山古墳群を始め、原始より数多くの遺跡が分布している地域であります。

今回の調査は昨年に引きつづき、文化庁並びに山形県教育庁文化課の指導のもと、個人の暗渠埋設工事に伴う緊急発掘調査として当教育委員会が実施し、その成果をまとめたものです。

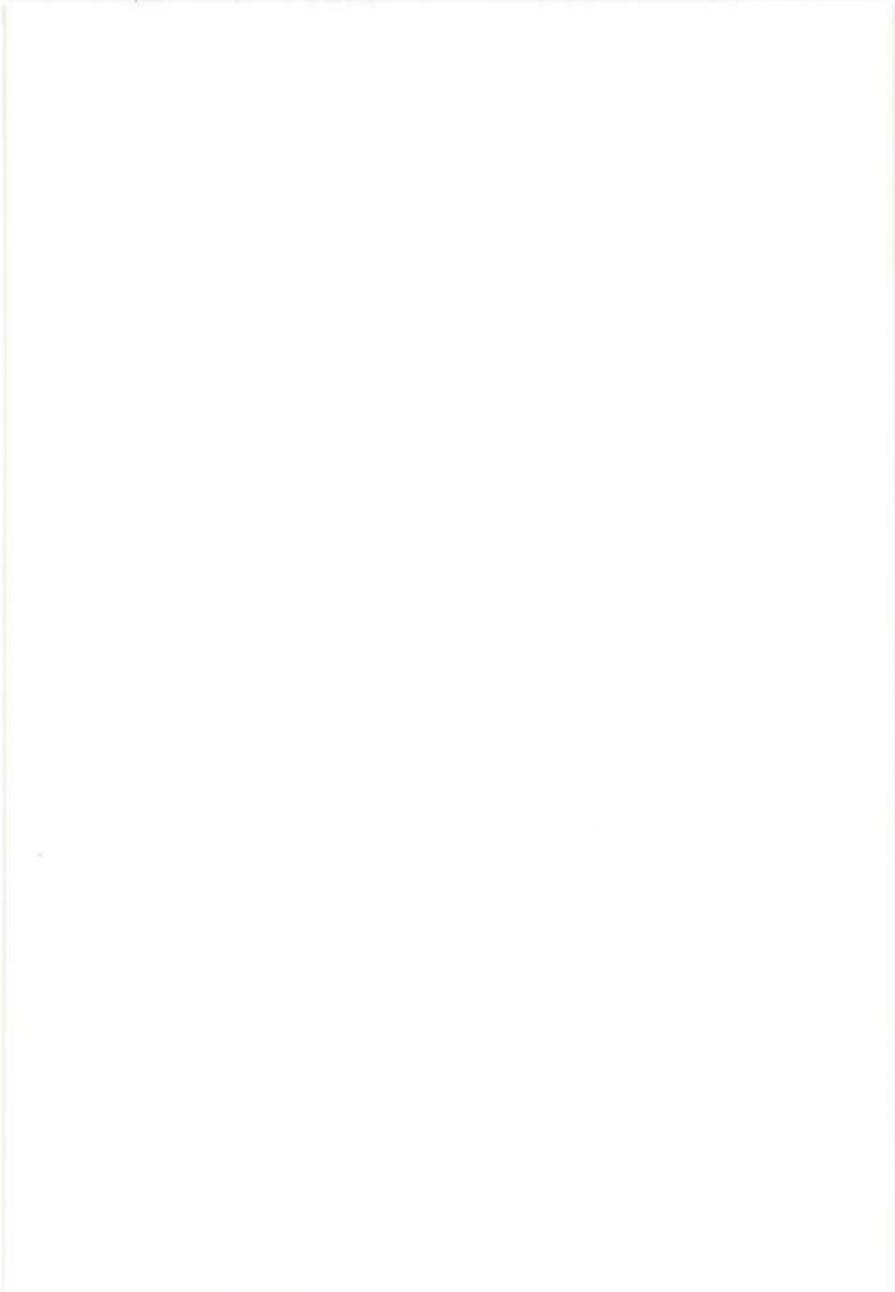
今回の調査区は、昨年度調査区の東側にあたる旧河川跡の調査であります。昨年の調査区からは、縄文時代、古墳時代、奈良、平安時代の遺物や遺構が検出されました。この中でも古墳時代後期の集落が中心であり、米沢では初めての検出であります。

今回の出土した遺物は完形土器、一括土器を含めますと593点あります。これら出土遺物の半数近くは漆が塗られており東北では大変珍しいもので、祭祀用の土器と考えられます。年代は6世紀中葉～6世紀後半期の所産と判断されます。当遺跡北東側には、200基にも及ぶ戸塚山古墳群が存在することから、これらの土器は戸塚山古墳の祭祀用として使用されていたものと考えられます。このことから、上新田A遺跡は古墳時代中期における祭祀集落跡として成立したものと推測され、当地区の発展期を考える上で貴重な資料となります。最後になりましたが、調査のあたり格別の御指導を賜りました文化庁、山形県教育庁文化課並びに地権者の皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。

平成5年3月31日

米沢市教育委員会

教育長 小口豆



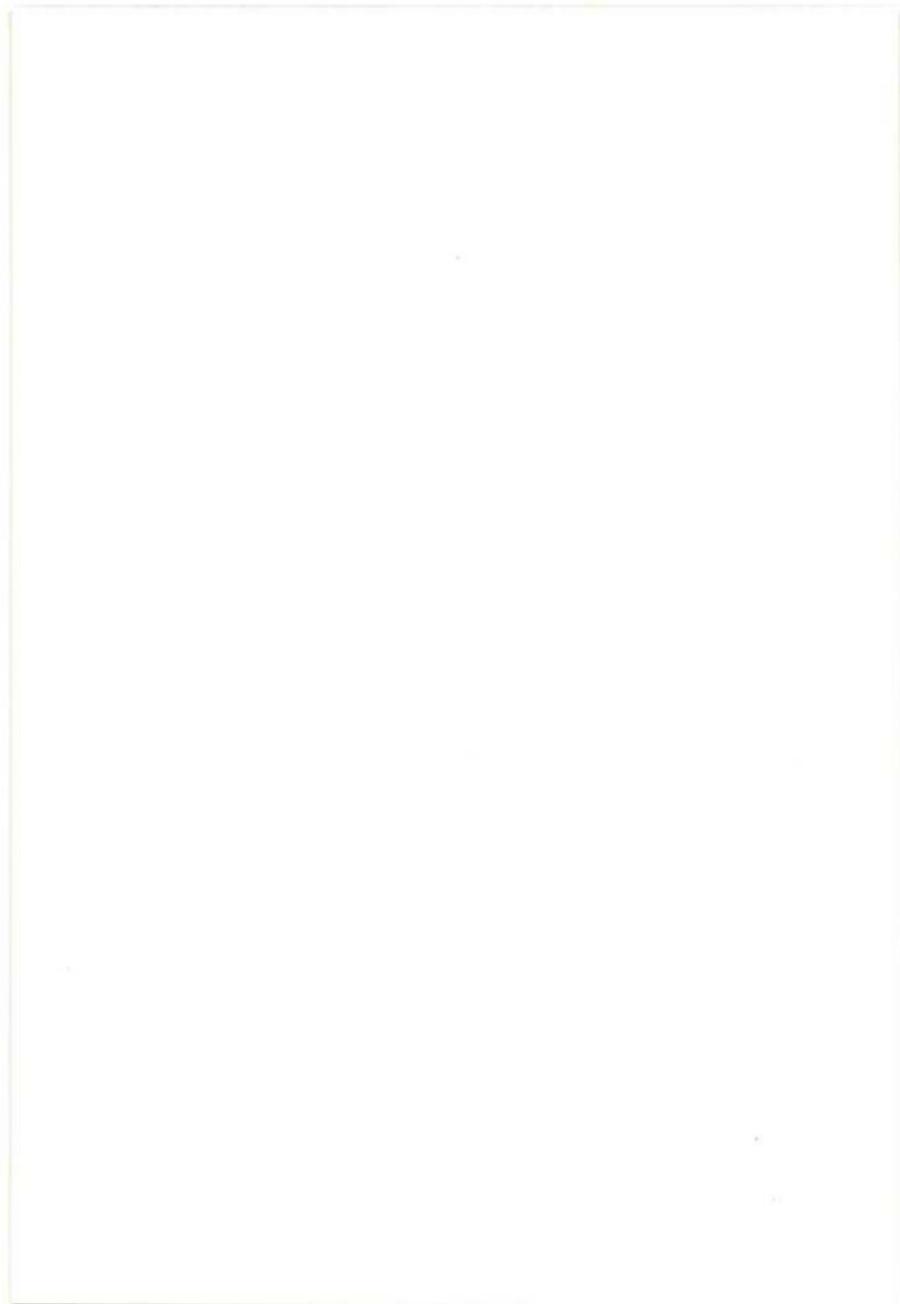
例 言

1. 本報告書は、文化庁の国庫補助を受けて4年度に実施した上新田A遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は米沢市教育委員会が主体となって平成3年に実施した個人の圃場整備に伴う第1次調査に引き続き、第2次調査として実施したもので、個人の暗渠埋設工事に係る緊急調査として、平成4年4月20日から同年5月30日の期間で実施したものである。
3. 調査体制は、下記のとおりである。

調査総括 木村琢磨（文化課長）
調査担当 手塚 孝（文化課文化財係主任）
調査主任 菊地政信（文化課文化財係主任）
作業員 原三郎 小関春雄 沢根英雄 小浦文吉 手塚武男 手塚二男 菊地政治
鈴木由美子
事務局 我妻淳一（文化課長補佐）
小林伸一（文化課文化財係長）
平間洋子（文化課文化財係主査）
月山隆弘（文化課文化財係主事）
調査指導 文化庁 山形県教育庁文化課
調査協力 手塚二男 手塚 隆 手塚幸夫 加藤里美 株式会社九北
上郷地区史跡保存会

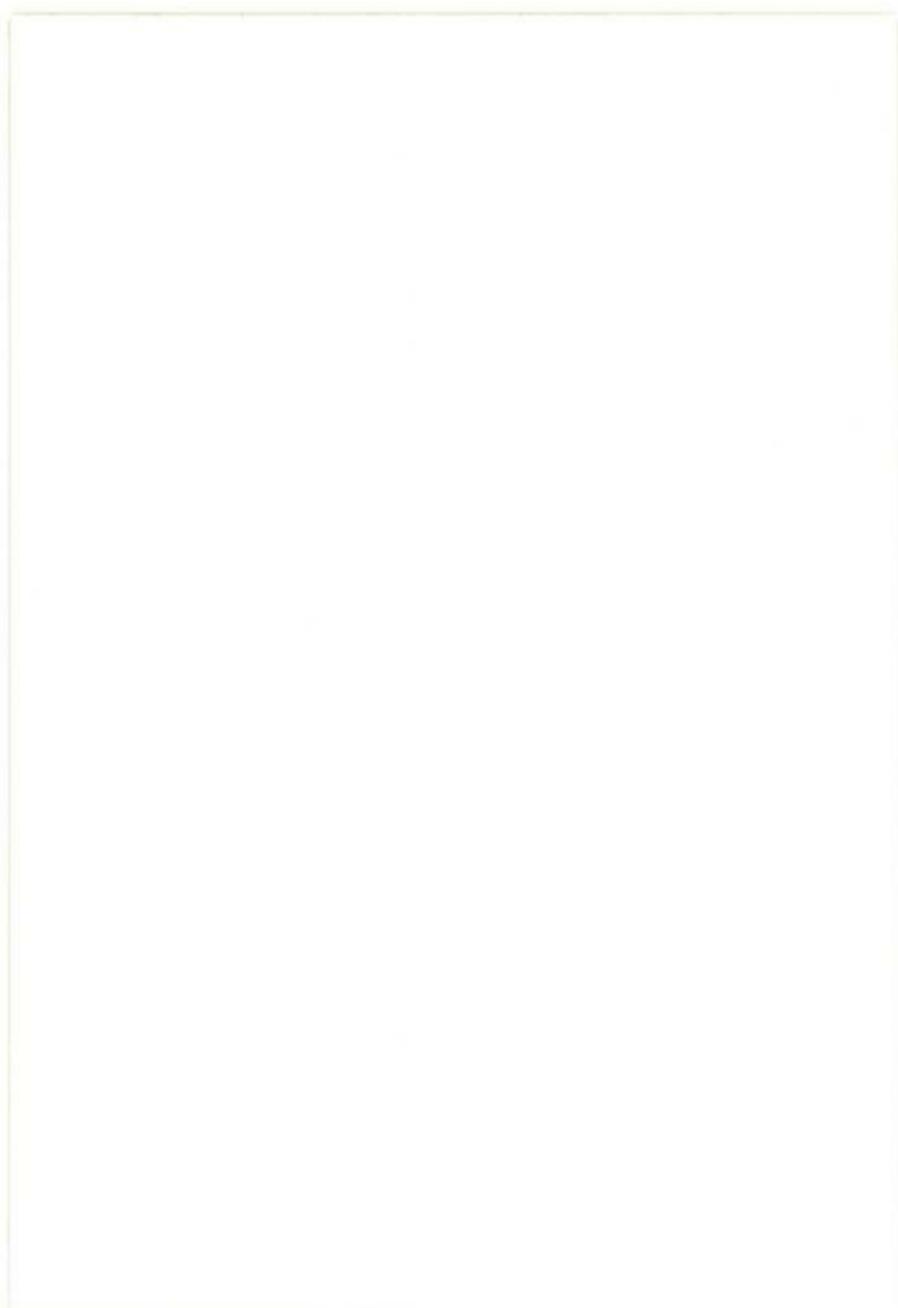
4. 掲図の縮尺は、画面上にスケールで示した。

5. 本書の作成は、手塚孝が担当し、菊地政信が補佐した。編集は菊地が行い全体的に手塚が総括した。責任校正は、小林伸一がその責務にあたった。



本文目次

序文	
例言	
目次	
1. 遺跡の位置と地形	1
2. 調査の経過	1
3. 検出された遺構	4
4. 検出された遺物	7
(1)土器調整手法の分類	7
(2)出土土器の分類	11
(3)出土土器の特徴	46
5. まとめ	46



挿 図 目 次

第1図 上新田A遺跡周辺の主な遺跡分布図	2
第2図 上新田A遺跡周辺の地形図	3
第3図 上新田A遺跡遺構全体図	5・6
第4図 土器調整分類図	8
第5図 上新田A遺跡出土土器実測図(1)	12
第6図 上新田A遺跡出土土器実測図(2)	14
第7図 上新田A遺跡出土土器実測図(3)	15
第8図 上新田A遺跡出土土器実測図(4)	16
第9図 上新田A遺跡出土土器実測図(5)	18
第10図 上新田A遺跡出土土器実測図(6)	19
第11図 上新田A遺跡出土土器実測図(7)	20
第12図 上新田A遺跡出土土器実測図(8)	21
第13図 上新田A遺跡出土土器実測図(9)	24
第14図 上新田A遺跡出土土器実測図(10)	25
第15図 上新田A遺跡出土土器実測図(11)	26
第16図 上新田A遺跡出土土器実測図(12)	27
第17図 上新田A遺跡出土土器実測図(13)	29
第18図 上新田A遺跡出土土器実測図(14)	31
第19図 上新田A遺跡出土土器実測図(15)	33
第20図 上新田A遺跡出土土器実測図(16)	34
第21図 上新田A遺跡出土土器実測図(17)	35
第22図 上新田A遺跡出土土器実測図(18)	36
第23図 上新田A遺跡出土土器実測図(19)	37
附図 上新田A遺跡第2次調査遺構全体図	

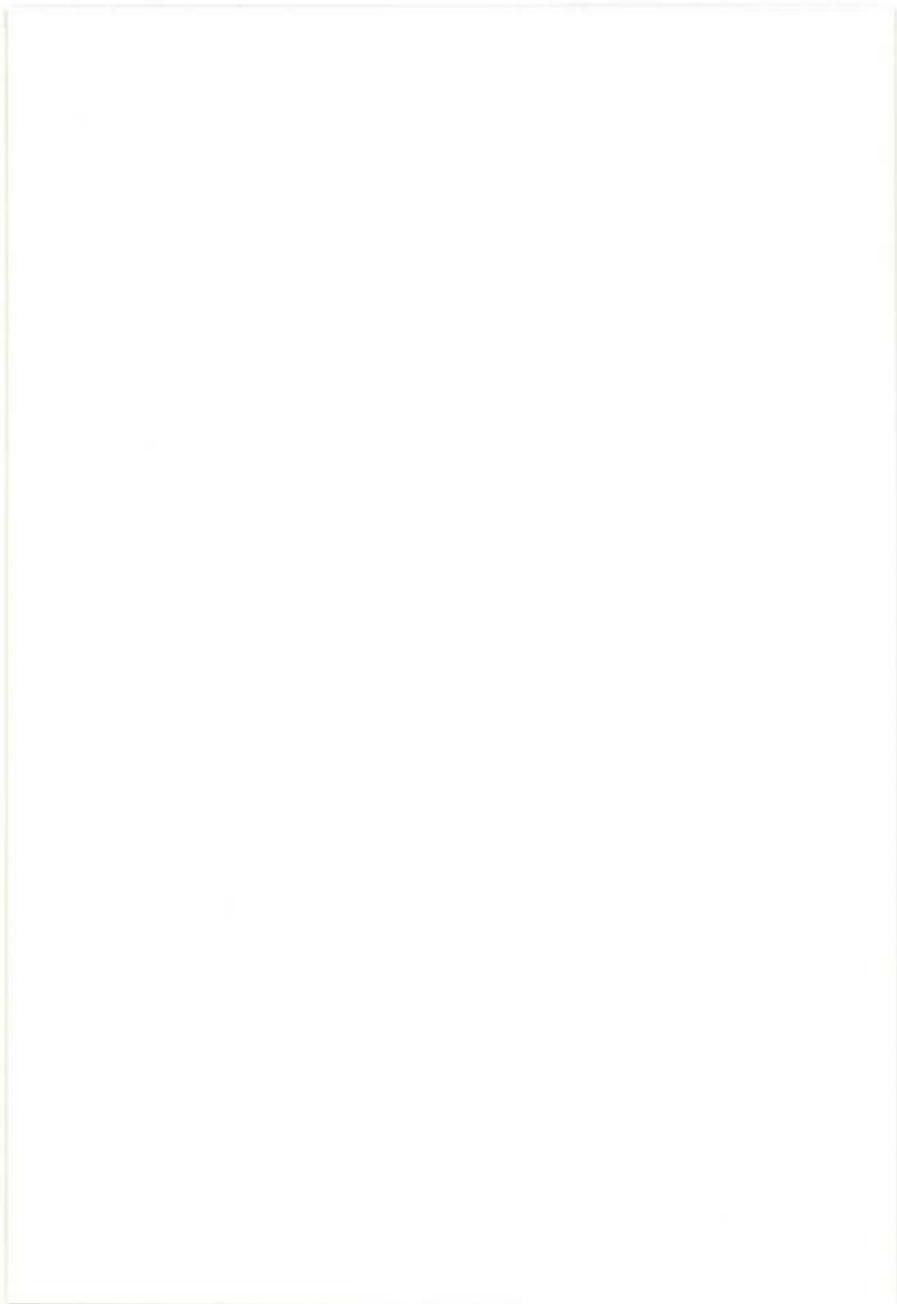
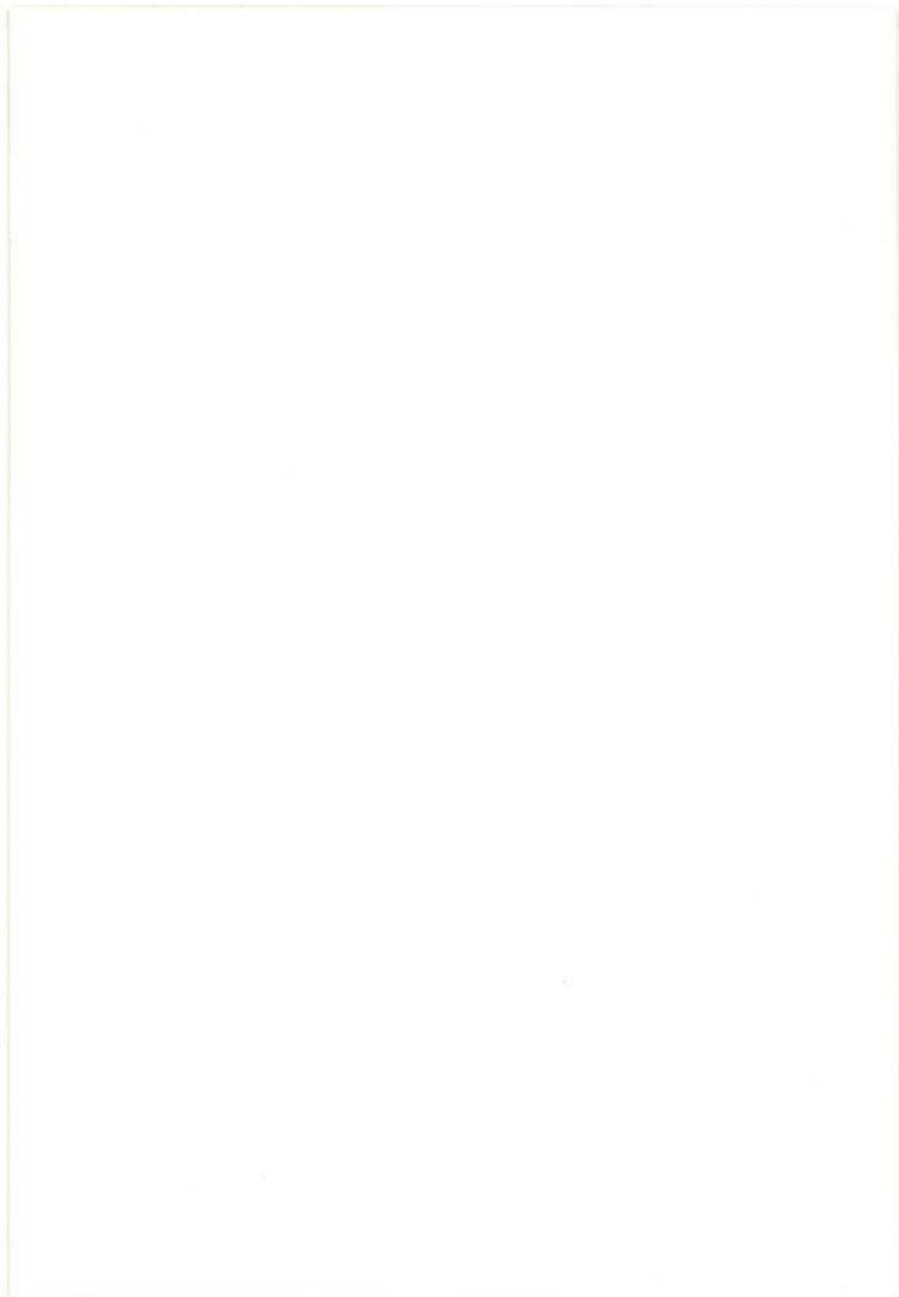


図 版 目 次

- 第一図版 上新田A遺跡第1次調査の発掘（1）
第二図版 上新田A遺跡第2次調査の発掘（1）
第三図版 上新田A遺跡第2次調査の発掘（2）
第四図版 上新田A遺跡第2次調査の発掘（3）
第五図版 上新田A遺跡第2次調査の発掘（4）
第六図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（1）
第七図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（2）
第八図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（3）
第九図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（4）
第十図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（5）
第十一図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（6）
第十二図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（7）
第十三図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（8）
第十四図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（9）
第十五図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（10）
第十六図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（11）
第十七図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（12）
第十八図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（13）
第十九図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（14）
第二十図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（15）
第二十一図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（16）
第二十二図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（17）
第二十三図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（18）
第二十四図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（19）
第二十五図版 上新田A遺跡SN1出土の土器（20）
第二十六図版 上新田A遺跡堅穴住居跡出土の土器（1）
第二十七図版 上新田A遺跡堅穴住居跡出土の土器（2）
第二十八図版 上新田A遺跡堅穴住居跡出土の土器（3）



1. 遺跡の位置と地形

本遺跡は米沢市街地の北東約2.3kmに位置する。発掘箇所は米沢市大字上新田字檜台1063番地他である。遺跡の東方には標高365mの戸塚山があり、山頂及び北側を除く山麓には中期古墳から終末期古墳にかけての195基の古墳が現存し、この戸塚山古墳群をとりまくように数多くの遺跡が分布している。

第1図で示すように本遺跡が分布する地域は、西方を北流する最上川（松川）の河岸段丘上に位置し、周辺は谷底平野に囲まれた独立した台地が点在している。遺跡の周辺は水田及び畠であり、松川に沿って緩やかに傾斜を有し、西南方向には後世（中世以降）に発達したと思われる小規模な河岸段丘が2段成立している。

遺跡の存在する台地は、約1,800m²の不整円形であり、標高232.4m、水田との比高差は東側で約1.5m、西方で約30cmを測る。これらの台地は、付近一帯の河岸段丘が成立した後に河川の氾濫等によって段丘が分断され、この様な自然堤防状の台地を形成したものと考えられる。

この地点が第1次調査区であり、平成3年（1991）8月1日から同年9月30日までの期間で調査を実施している。

遺跡の発見は米沢市教育委員会が昭和57年から60年にかけて分布調査を実施した際に発見されたもので、採集遺物から本遺跡は奈良時代の遺跡として登録されていたが、昨年度の調査結果から、縄文時代・古墳時代が加わり、複合遺跡であることが判明した。戸塚山周辺は、戸塚山古墳群に関連が深いと考えられる遺跡が存在しており、本遺跡を含め、発掘調査を実施した遺跡としては、昭和59年、60年に圓場整備事業で発掘調査を実施した上浅川A遺跡、上浅川B遺跡の3遺跡がある。

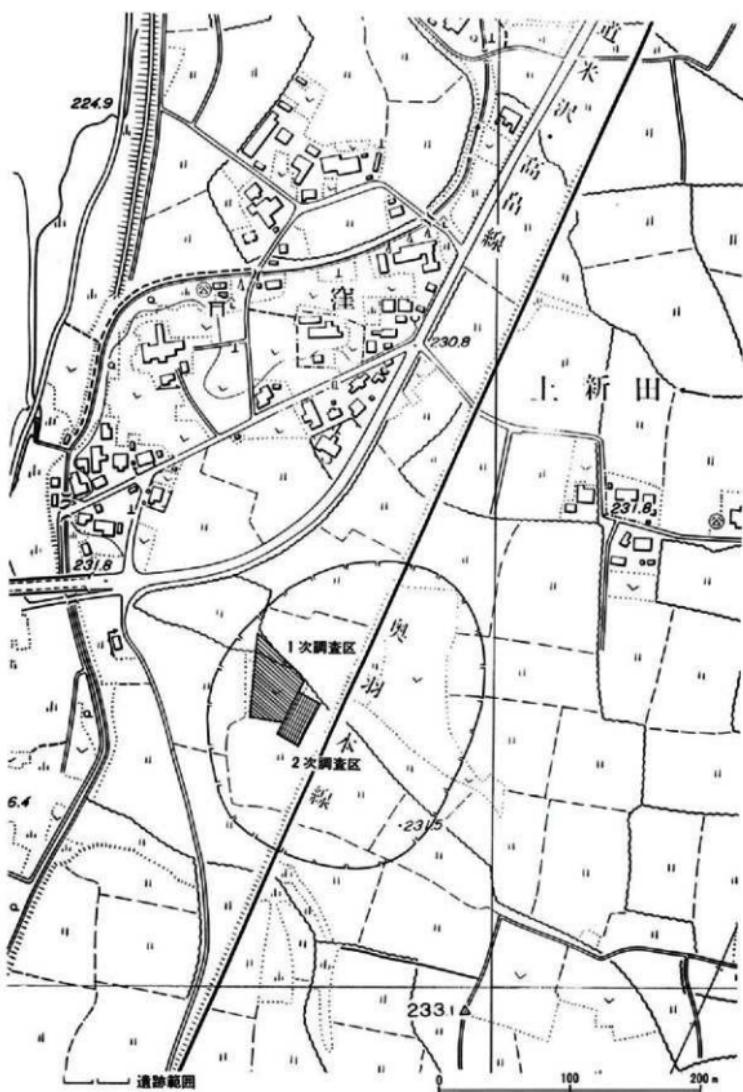
2. 調査の経過

今回の発掘調査は個人の暗渠埋設工事に伴う緊急発掘調査として、平成4年（1992）4月20日から調査を開始し、同年5月30日までの予定で実施した。調査範囲は第1次調査区に隣接した東南部に位置し、暗渠埋設予定地域の600m²を対象に設定した。調査区には前年度のグリットを基準点として、南方から便宜的に1区から4区に分け調査を開始した。遺物が多量に出土することは前年度の試掘調査で確認しているので破片については前述した調査区で取り上げる事にし、完形土器については、出土点及び出土状況を実測しながら作業を進める事にした。

4月20日、調査に先立ち、県道から発掘調査区への取り付け道路設営から開始する。その後、調査箇所を重機で表土剥離を行い無遺物層のI～IVを堀り下げる。今回の調査は河川状の落ち込み遺構を中心であり、遺物の出土する5層より、順次掘り下げ、図化作業を繰り返し、それぞれに



第1図 上新田A遺跡周辺の主な遺跡分布図



第2図 上新田A遺跡周辺の地形図

6層～8層と確認する方法で進めた。遺物の大半は、7層、8層に主体的に認められ、特に溝の西側に面した岸よりに集中する傾向がみられた。このことは、1次調査で検出された住居跡群より意図的に廃棄されたことを意味するものと考えられる。

調査は排水を囲ながら5、6層を4月21日から4月27日、7層の堀り下げを4月28日から5月13日まで、8層は5月14日から5月25日を要し、それぞれに遺物出土測量、セクション図作成、写真撮影等の記録を行ってほぼ5月30日に終了する。最終調査面積は400m²であった。

3. 検出された遺構

前年度の調査では、遺構は台地の全域に亘って検出され、堅穴住居跡7棟、溝状遺構16基、ピット63基と土壙59基が確認された。これらの遺構群の大半は古墳時代後期（6世紀）に位置するものであり、他に縄文時代・奈良時代・平安時代・近世の各時期に位置する遺構も若干認められた。

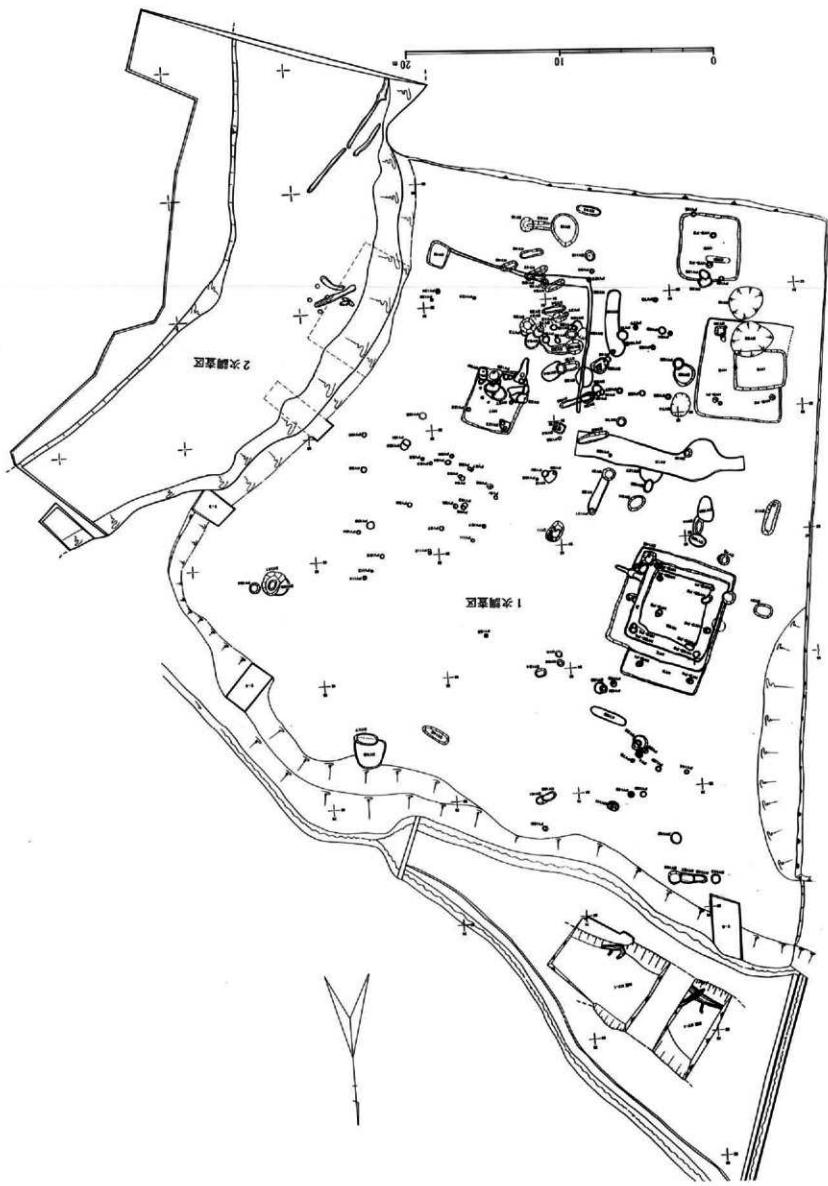
今回の調査区から検出された河川状遺構（S N 1）は最下層から縄文時代の土器片、上層から奈良・平安時代の遺物が出土していることから河川が成立したのは縄文時代と考えられ、奈良時代には機能が失ったものとみられる。

河川状遺構〔N S 1〕〔第3図・付図〕

現状の地形や調査により、この遺構は南西方向から蛇行しながら北流し1次調査区の台地に接近し、流れを東方に変え、さらに北流する河川と推測され、一時的な羽黒川の支流であると考えられる。幅は北側で約8m、中央部で11m、南端で10.5mを有し、河床までは約2m前後である。河川内の堆積層は自然堆積土層であり、水位の流れを示すシルトや砂層が部分的に認められた。

遺物は5層、6層が僅かで、前者が中世、後者が奈良時代から平安期の須恵器、土師器片が認められた。その真下に砂層の間層を挟んで流木が横倒して存在し、7層と8層に多量の完形土器を主体とした古墳時代の土師器群が検出された。さらに最下層の9層からは縄文時代の石器が出土したことから河川として機能した時期は少なくとも縄文時代まで遡るものと推測され、古墳時代には沼状の湿地帯として機能し、奈良時代に入る頃には低地状に化し、中世には完全に埋没したことが今回の調査で明らかとなった。

米沢市において河川跡が発掘された例としては、上郷地区浅川の上浅川a遺跡や万世町桑山遺跡群の大清水遺跡、八幡堂遺跡、八幡原遺跡群の八幡原A・B遺跡、清水北C等がある。しかしながら今回のように多量の古墳時代の遺物が検出された例ではなく、戸塚山古墳との関連や上新田a遺跡の性格を知る上で貴重な成果といえよう。



4. 検出された遺物

今回の第2次発掘調査で検出した遺物はSNIと称する河川状遺構の7層、8層を中心として完形一括土器593個体分を含む総数7212点が出土している。これらの土器群は古墳時代の後期に属するものであり、壺、塊形土器、高壺等の共體形態の仲間が大半であった。

ここで復元や図化した代表的な266点を対象にして分類し、本遺跡の特徴を探ってみる。

(1) 土器調整手法の分類

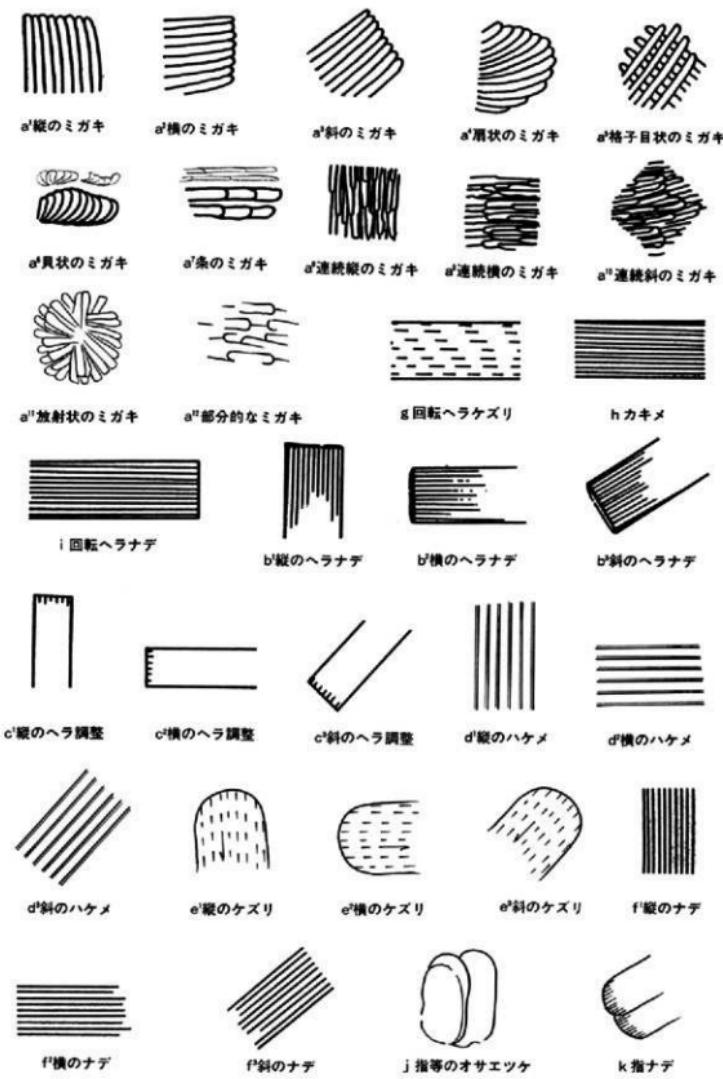
土器を論ずる前に、土器製作上の調整手法（技法）について考えてみたい。出土土器の調整手法の表現は調査報告書の実測図によって図化されてきたが、土器の製作工程の相違（ロクロ使用や未使用）や調整工具の使用法（製作技法）、器種によって異なることは言うまでもない。

ところが、仮に土師器をとっても調整工具や調整手法の名称及び図示の表現方法は各地の報告書によっては異なっているものも少なくない。ことに筆者らが重視する調整順位（ミガキ等）が時期や地方文化に大きく反映している例も数多く確認している。従って、土器の調整手法や順位を的確に名記する必要性が重要であることを認識せざるを得ない。また、標記する図示は実物と同一でなければ意味がない訳であるが、土器の磨減度合や術上の限度も事実であり、調整手法を実測図に明確に標記できれば、ある程度の記号化もやむないと考えている。ただし、基本は実測図は実測であり、略図は実測図の域には加わらないことも強調しておく。このことを前提に、これまでにも当市教育委員会ではロクロ成形を用いる土師器、須恵器の調整手法の分類基準を筆原遺跡や大浦B遺跡等の報告書の中で設定してきた。今回の上新田A遺跡の土師器群はロクロ成形を有さない土器類であり、ロクロ成形土器の調整基準では表現が不可能な技法も存在することから新に加筆修正し、第4図を作成した。

さて、上新田A遺跡出土の土師器群は基本的に外面調整と土器内部の内面調整に大別される。器形によっても調整手法（技法）が異なるが、外面調整はナデ、ヘラケズリ、ミガキ、ハケメ調整が比較的多く用いられる一方、内面調整としてはヘラミガキ、ヘラナデ、ヘラ調整が主体を占めている。以下簡単に調整手法（技法）と応用、調整工具について説明を加えたい。

a ヘラミガキ

竹の表面や棒状工具を用いて器面の細部を調整する手法で、時には指の爪の部分で同様の効果を表出す場合もある。ヘラミガキ、みがき、磨き等と称される手法で、縄文前期頃から土器の内外面の調整として使用され、同中期以降は文様突出技法の『磨消縄文』等に主体的に利用されてきた。土師器類では最終工程の仕上げに用いられるものである。調整手法より次の13類に細分される。



第4図 土器調整分類図

a¹ 縦位のミガキを主体としたグループで、高坏の脚部や壺形土器の頸部から下胴部にかけた外面調整に多く用いられる。他に坏や壺の底部に施こす例もある。

a² 横位の同一方向ミガキを主体としたグループで、ミガキの仲間では最も多く用いられる手法であり、坏や壺、高坏の内外面の調整、壺及び壺形土器の口縁部から頸部にかけて施こされるものもある。

a³ 斜位の同一方向ミガキを主体としたグループである。坏や壺、高坏、壺形土器の外面調整を中心とした手法であるが、内面調整としても a² の次に多く用いられる。

a⁴ 扇状に同一方向ミガキを呈するグループで、坏や壺の内面調整として用いられる。

a⁵ 交互にミガキを加える手法であり、結果的に格子目状をなす。壺形土器の内面調整として、中央部から底辺にかけて用いられる場合がある。

a⁶ 横位の一定方向に小単位のミガキを連続して調整する手法で、形状から貝状ミガキと分類している。坏や壺の内面調整として、くびれ部や棱を有する器面の細部調整、壺形土器の頸部と胴部の接合部、同じく高坏の脚部との接合部の調整に主として認められている。

a⁷ 縦位もしくは横位に平行するミガキ調整のグループであり、平行して連続調整を施こすことから条のミガキと分類した。坏、壺形土器、壺形土器の内面調整に用いられる。

a⁸ 縦位に連続してミガキを有するグループで、高坏土器や壺に多く用いられる手法である。

a⁹ 横位に連続してミガキを加えるグループで、壺形土器や壺形土器、壺の胴部から頸部にかけて用いられる場合が多い。

a¹⁰ 斜位に連続してミガキを有するグループで、坏や壺形土器の外側調整として用いられる。

a¹¹ 放射状のミガキ調整を主体としたグループで、坏や壺形土器の底部から胴部にかけて用いられる調整手法である。内面の最終調整手法であり、中央底部から胴部へと調整するものと、胴部から底部に調整を行う二通りがある。

a¹² 後述するハケメ調整の後に施こす部分的なミガキを本類とする。壺形土器と壺形土器に用いられる場合が多い。

a¹³ 壺類土器を中心とした器面の最終調整手法であり、動物の毛皮や布地で丁寧に磨痕する調整技法である。器面全体を細毛等で磨くため光沢を発し、固化で表現することは不可能である。従って文章表現でとどめざるを得ない。

b ヘラナデ

板状工具もしくは竹状のヘラ状工具で調整する手法であり、壺形土器や壺状形土器の内部胴部面の最初の調整として用いられる。調整手法から次の3類に分けられる。

b¹ 縦位のヘラナデを主体にしたグループで、大型の壺形土器や壺の内部調整として、底辺から胴部にかけて施されるものが多くみられる。

b² 横位のヘラナデを主体にしたグループで、夔形土器や壺形土器、鉢形土器の内部調整として、頸部付近から胴部中央にかけて用いられる場合が多い。他に大型の壺形土器や高环の一部にも用いられる例もある。

b³ 斜位のヘラナデを主体にしたグループで、夔形土器と壺形土器の内部調整として、下胴部にかけて顯著にみられる手法である。

c ヘラ調整

基本的には先の b グループと同じヘラ状工具を使用して調整を施すものであるが、工具の幅が 0.5cm～1cm 前後と極端に狭く、器面の高低差を強調して調整を行うものであり、前者のヘラナデとは明らかに異なる。調整手法は二つに大別され、外面の底辺部を後述するケズリの様に引き出して器面を整える方法と壺や壺形土器の内部を a¹¹ のグループの様に底面部を放射状に調整するものがある。調整方何から 3 グループに分類する。

c¹ 縦位のヘラ調整を主体としたもので、壺や壺の底部調整として、放射状に施こす場合が多くみられる。他に高环の脚部調整や夔、壺形土器の内面調整として、底辺部を施こす例もある。

c² 斜位のヘラ調整を主体としたもので、主に丸底を有する壺や壺の底部変形を整える際に用いる場合が多く、夔形土器や鉢形土器にも数例ある。

d ハケメ

クシ状の工具を用いて器面の内外面を調整するもので、最初の手法として用いられる。大半は夔形土器や鉢形土器の内外面調整に用いられるが、他に壺や壺形土器、高环、壺形土器の調整としても使用される。ことに壺形土器に関しては約 4 分の 1 程に施こしており、上新田 A 遺跡の特徴とも言えそうである。縦～斜の 3 類に分けた。

d¹ 縦位のハケメを主体としたもので、夔形土器の外側調整として胴部に多くみられる。他に高环の脚部や壺の一部にも用いられることがある。

d² 横位のハケメを主体としたもので、夔形土器の内面調整を主に夔形土器、高环、小形土器や壺の最初の調整としても施こされる。

d³ 斜位のハケメを主体としたもので、夔形土器の内面底辺の調整や壺形土器の外側底辺部に多く用いられている。

e ケズリ

鉄器やヘラ状工具を用いて、変形した器面を剥り取って調整を施すもので、壺形土器の底部調整に使用される。他に夔形、壺形土器、高环に認められる例もあるが少ない。ケズリ調整としては縦位のケズリ e¹、横位のケズリ e²、斜位のケズリ e³ と分類したが明確な器形等での区別は認められなかったので、ここでは一括して述べておく。

f ナデ

ヘラ状工具や布等によって器面を軽く調整する手法で、彫形、壺形、高环、塊と大半の器形に使用される。調整手法から次の3類に分けられる。

- f¹ 縦位のナデを主体としたもので、壺形土器の内部調整に多くみられる。
- f² 横位のナデを主体としたもので、各種の器形の口縁部から頸部にかけての最終もしくはその前段階の調整として用いられる。
- f³ 斜位のナデを主体としたもので、彫形土器・鉢形土器・鉢形土器・甌等の内部の調整や他に塊形土器の一部にも用いられる。
- g 回転ヘラケズリを主体としたもので、ロクロ成形の环や蓋類に多くみられる。
- h カメリキを主体としたもので、ハケメ工具を利用し、ロクロ回転で調整を施す。
- i 回転ヘラナデを主体とするもので、ロクロ成形の調整手法である。
- j 指のオサエッケとして分類するもので、彫形土器・土器や壺形土器の外面底辺部調整として比較的多く用いられる。
- k 指ナデを主体としたもので、高环の内部接合部や手捏土器の内部調整に用いられる。

なお、上新田A遺跡出土の土器群は第17図の218を除くすべてがロクロ成形を伴わない土器群であり、g～iは直接意味をもたないが、ここでは一応付け加えた。

(2) 出土土器の分類

今回の調査で検出された土器群は先述した様に7212点である。このうち最も多く認められたのが彫形土器で3021点、次いで塊形土器に2872点、壺形土器914点、高环275点、小形土器50点、甌15点、その他65点となる。この中で復元を行ったのが266点、復元可能土器が327点、そして代表的な土器群の実測図を作成したのが71点である。ここでは復元を完了した266点を対象にして説明を加えることにする。

A群土器

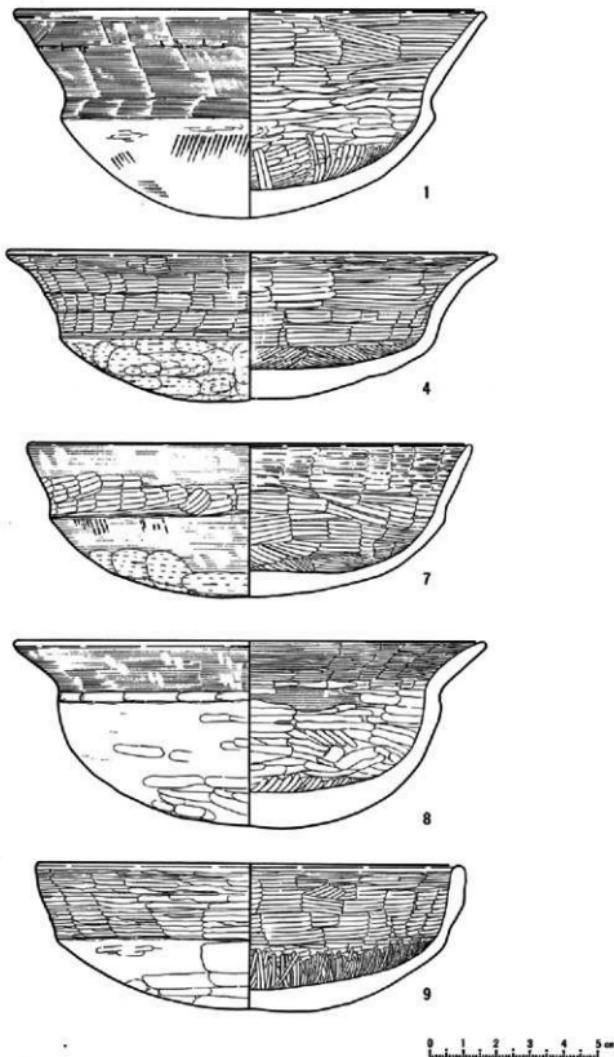
内面を黒炭化処理を施した环及び塊形土器を一括した。器形状の特徴から次の9類に細別される。この仲間の復元土器は65点で14点を図化した。

A群1類 (第5図1・4・7・8)『第6図版1～8』

口縁部が外に大きく外反する塊形土器で、底部が球形に近い特徴がある。体上部に稜を明瞭に現す1～3・5・6が中心となるが、稜の未発達な4・7も存在する。調整は外側がケズリeからミガキa、ナデのfを用いたものが多く、1の様に最初の工程でハケメdを示す例も含まれる。内面はすべてミガキaを有し、a²、a³、a⁷のグループが主体を占める。注目されるものとしては1と8の外側調整としてミガキa¹³の毛ミガキを有するもので、他の類には存在しないものである。

A群2類 (第5図9)『第6図版9・10』

口縁部が内曲気味に外反する塊形土器を一括した。先のA1類と比較して器高が低く、稜が未



第5図 上新田A遺跡出土土器実測図(1)

発達のを特徴としている。調整は外面を a のミガキと e のケズリを主要調整とし、他に k の指ナデを施こすものも含まれている。内面は a⁷ のミガキを主に a グループで構成している。

A群3類（第6図11・14・16・268）『第6図版11～14、第7図版15～19』

体部（胴部）から外反しながら直角に立ち上がる口縁部を呈し、稜が顎著に発達している。全体に器高が低いのが多く、須恵器の模倣形態である。調整は外面が f のナデ、e のケズリ、a のミガキ、d のハケメ等で調整を施こしているが、特に e 及び f の調整が中心となっている。内面はすべて a のミガキを主体に a⁷、a¹～a³で調整するものが多い。

A群4類（第6図25、第7図30）『第7図版20～28、第8図版29～31』

口縁部がほぼ直角に立ち上がり、底部が球形を示すグループを一括した。調整は外面を a のミガキ、e のケズリ、d のハケメ、c のヘラ調整で調整するもので、本類に関しては d グループのハケメ調整を伴うのが特徴である。内面は A3類と同様に a のミガキを多用し、この中で a¹¹の放射状のミガキを有するのが注意される。

A群5類（第7図35・43）『第8図版32～41』

口辺部が直角からやや内反するグループで、稜の部分が丸味を呈している。調整は外面を e のケズリ、d のハケメを初期調整するものが大半である。

A群6類（第7図44・48、第8図52）『第9図版44～52』

ゆるやかな半円形状を呈す器形をなし、稜の存在しない塊形土器である。外面を a のミガキを主に d のハケメ、e のケズリを残し、内面は a⁷ のミガキ、a² のミガキに a⁷、a¹⁰ のミガキを加えた調整で仕上げている。

A群7類（第8図54）『第9図版53・54』

器高の深い半円形状の塊形土器で、口辺部が僅に「く」の字状に内曲するのを特徴としている。調整は d のハケメ、k の指ナデを加えた後に a²、a⁷ のミガキで外面を整え、内面を a のミガキと c のヘラ調整を行っている。

A群8類『第9図版55～57』

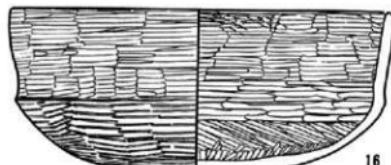
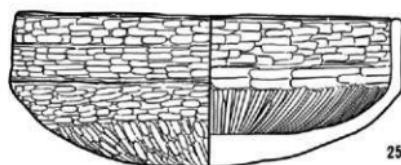
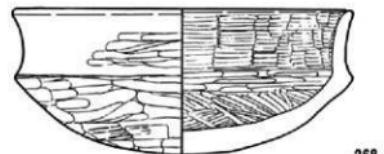
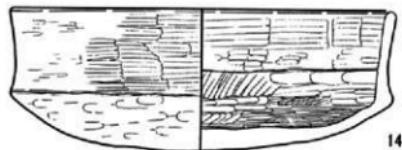
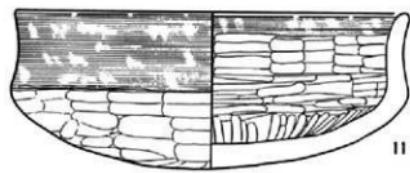
丸底の底部から急速に口辺部で内曲する内塊であり、外面を a のミガキを主体に f のナデ、内面を a⁷ 及び a¹ のミガキで調整を加えている。

A群9類（第8図版58）『第9図版58・59』

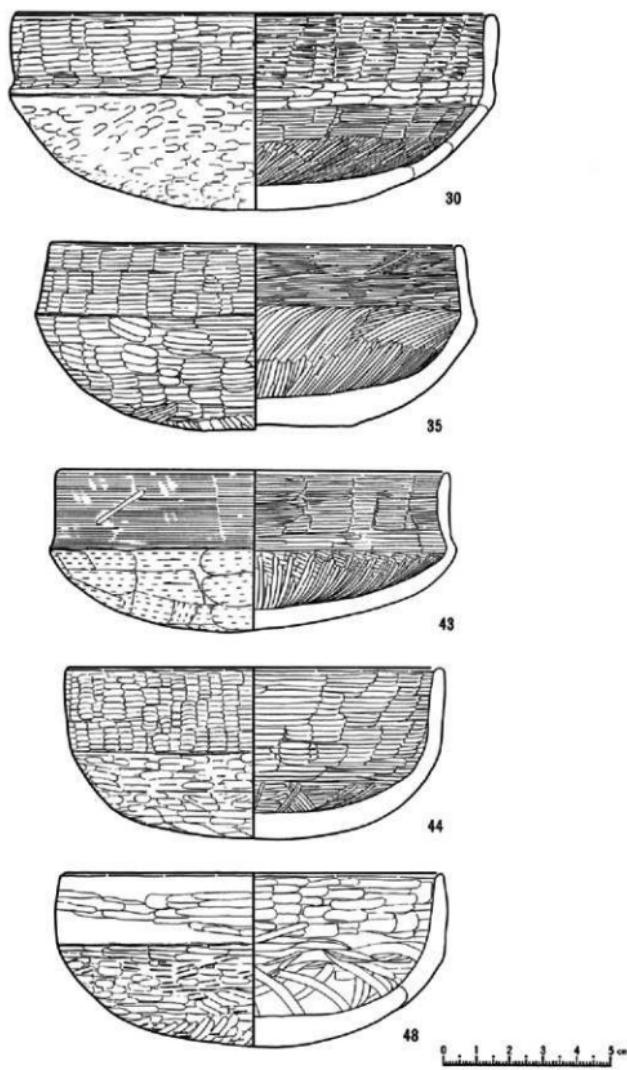
口辺部に2重の僅な稜を有するもので、A群6類に近い器形を示す。調整は外面を c² のヘラ調整と d のハケメを加え、a のミガキと f のナデで仕上げている。内面は a⁷、a² のミガキを主に a¹ と a³ で施こすのが基本となる。

B群土器

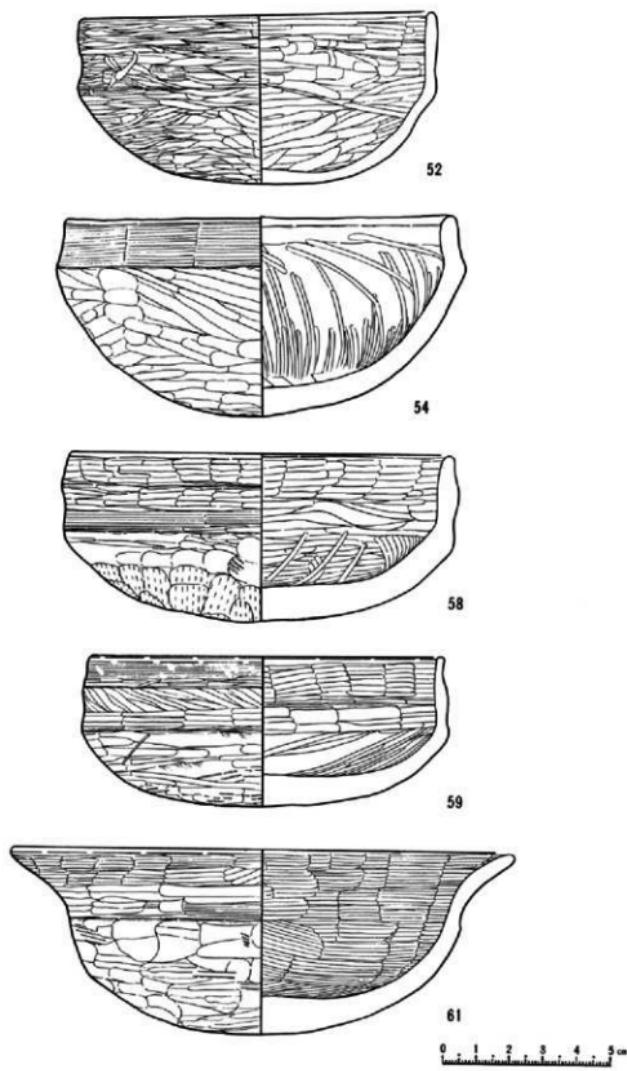
内面に黒炭化処理を施さない塊形（环）土器を分類したもので、処理を伴う塊形土器の約2



第6図 上新田A遺跡出土土器実測図(2)



第7図 上新田A遺跡出土土器実測図(3)



第8図 上新田A遺跡出土土器実測図(4)

倍の117点を復元した。塊の全体的な数量でも多数を占め、処理を有する塊との比率は1:2である。22点を図化した。本来は器形で分類すれば先のA群土器と同一の中細分すべきと考えるが、あえて区別して黒炭化処理を有する塊との比較を行うものである。器形的には重複するが、形態的に次の14類に細分した。

B群1類（第8図61）『第10図版60・61』

口辺部が大きく外反する塊形土器で、底部がポール状を呈し先のA群1類と同形態を示す。外面はdのハケメ、cのヘラ調整を最初に行い、aのミガキとfのナデで仕上げている。内面は横位のa²のミガキを主にa³、a¹、a⁷で調整を加えている。

B群2類（第9図63・66）『第10図版63～68』

僅に稜を残し、大きく外に口辺部が開くのを特徴としている。調整は外面をeのケズリ、cのヘラ調整、dのハケメを体部に施こし、口辺部にaのミガキとfのナデを用いている。内面はa²のミガキを中心にしてa⁷とa³を加えた手法が多くみられる。

B群3類（第9図69・73）『第10図版69～73、第11図版74・75』

A群3類と同形態である。稜が頗著に発達し、口辺が内曲気味に立ち上がる器形である。外面の調整はそれぞれ異なっているが、dのハケメ、kの指ナデ、jのオサエッケにaのミガキ、fのナデ等で仕上げている。内面は横位のミガキa²を主体にa³、a⁷、a¹とfのナデで構成する。

B群4類（第9図76、第10図84・86）『第11図版76～87、第12図版88・89』

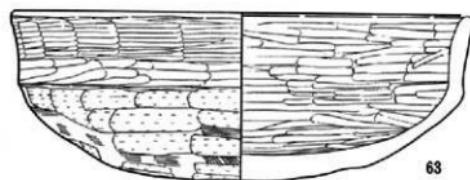
稜が、頗著で、口辺部が内傾する塊形土器を一括した。器形的にはA群5類に近く、須恵器の模倣形態である。調整は外面体部にdのハケメ、cのヘラ調整、eのケズリを施すものが多く、口辺部をaのミガキで仕上げている。内面はすべてaのミガキを利用し、中でもa⁷、a²を主にa³、a¹、a²を有するものが多くみられる。

B群5類（第10図90・93・104）『第12図版90～101、第13図版102～114』

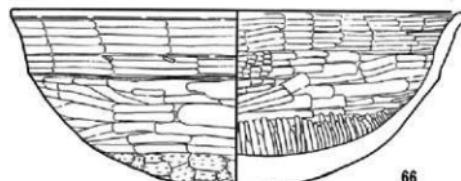
今回検出された塊形土器の仲間では最も多く、15点を復元した。稜が丸味を帯び、口辺部が直角に立ち上がる球形状の塊類で、外面調整は口辺部をaのミガキを中心に体部から底部にかけdのハケメ、cのヘラ調整、eのケズリにaのミガキを加えて行っている。内面はa²、a⁷のミガキを中心にしてa¹、a³を加えたものが大半であるが、111の様にcのヘラ調整とfのナデで仕上げている例もある。基本的な調整として、外面をd、e、c→a⁷→a¹→a²、内面がa²→a⁷→a¹→a³と行う手法が代表となる。この類も模倣形態に分けられる。

B群6類（第11図119・127）『第13図版115・第14図版116～127』

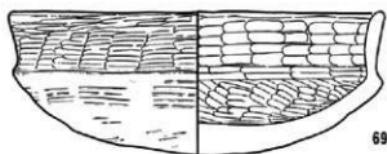
形態的にはB4類、B5類に近いが、稜が未発達である。底部は偏平の丸底を有し、口辺部が直角もしくは僅に内傾するものがみられる。調整は外面がdのハケメ調整を施す手法が多く、他にcのヘラ調整、eのケズリにkの指ナデを伴うものもある。口辺部はaのミガキ、fのナデ



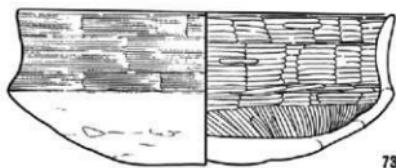
63



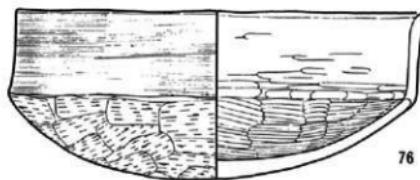
66



69



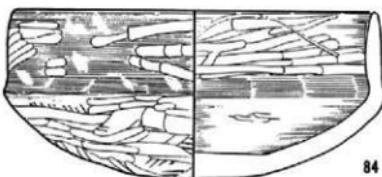
73



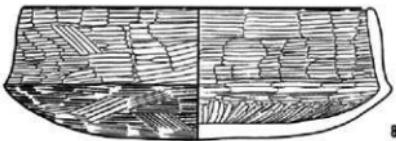
76



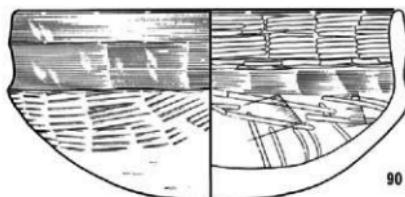
第9図 上新田A遺跡出土土器実測図(5)



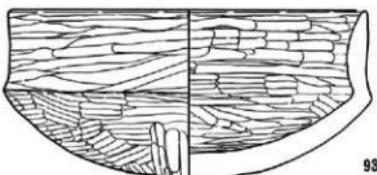
84



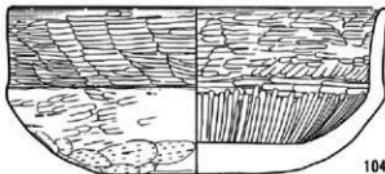
86



90



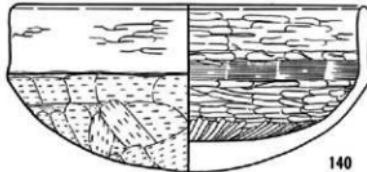
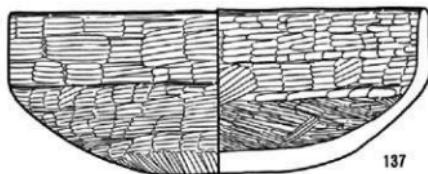
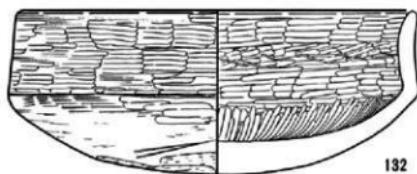
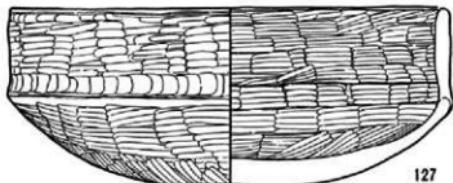
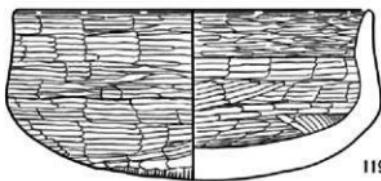
93



104



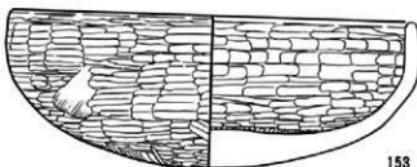
第10図 上新田A遺跡出土土器実測図(6)



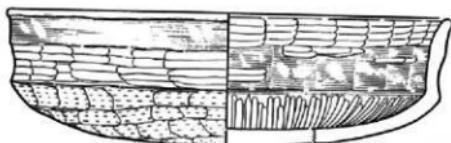
第11図 上新田A遺跡出土土器実測図(7)



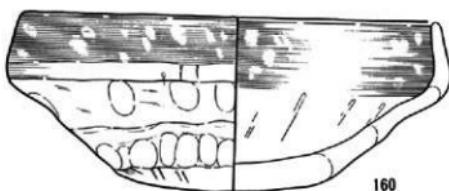
148



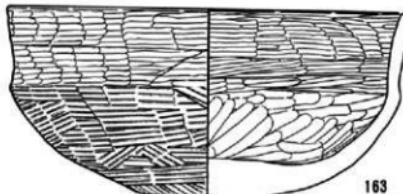
153



157



160



163



第12図 上新田A遺跡出土土器実測図(8)

が主であった。内面はミガキの a^2 、 a^7 を中心として a^3 、 a^1 で構成するが、他に d のハケメや c のヘラ調整を加えた例もある。

B群7類（第11図132）『第14図版129、第15図版130～133』

基本的には前述したB群6類に分けられるが、全体的に器高が低く、底部が丸味を有することであえて区分した。調整は外面を d のハケメ、e のケズリに a のミガキを加えた手法で、内面は a のミガキを主体に c のヘラ調整、f のナデがみられる。

B群8類（第11図137・140）『第15図版134～144、第16図版145～147』

口辺部が直角もしくはやや内傾気味の塊形土器で、稜が不明瞭で未発達な塊類を一括した。底部が球形状を示す140のグループと平担な137の二者が含まれる。この類に属する調整は外面の体部の初期調整として e のケズリを使用するのが特徴で、他に c のヘラ調整、d のハケメを示すものもある。口辺部は横位のミガキ a^2 、斜位の a^3 にナデの f^2 で仕上げている場合が大半である。内面は a のミガキの a^2 、 a^7 を主体に a^1 、 a^1 、 a^3 等で構成するのがめだつ。

B群9類（第12図148）『第16図版148～150』

内曲する小形の塊形土器で器高長のグループを一括した。調整は d のハケメを主要調整として外面を施こすのが特徴で、内面を a^1 ～ a^3 のミガキで仕上げている。

B群10類（第12図153）『第16図版151～153』

先の9類と基本的に同形態であるが、器高が僅に低く、内面の調整が密なことからあえて、区別した。調整は内外面とも a のミガキを多用するのが特徴である。

B群11類『第16図版154～156』

本類も9類に類似するが口辺部の形状が口縁部に近い箇所で内曲することからあえて分けた。口径の長さが10.5cm前後と小規模である。調整は外面を d のハケメを主要調整とし、c のヘラ調整、f のナデ、e のケズリを加えている。内面は a のミガキが中心となるが156の様に f のナデを主体とした例も存在する。

B群12類（第12図157）『第16図版157』

口辺部と体部がほぼ同じ比率を有する塊形土器であり、口辺部が2段の稜を伴っている。調整は外面が e^1 ～ e^3 のケズリを体部に施こし、口辺部を a^2 のミガキと f^2 のナデで行ない、内面は f^2 のナデ→ a^2 のミガキから底部にかけて a^{11} のミガキを加えている。

B群13類（第12図160）『第16図版150・159、第17図版160』

てづくね風の粗雑な塊形土器である。口辺が「く」の字状に内曲するのが特徴であり、k の指ナデを中心にして d のハケメ、c のヘラ調整で簡単に外面を施こし、内面も同様に f のナデに a のミガキを部分的に加えている。

B群14類（第12図163、第13図172）『第17図版161～172』

器高の長いボル状を呈した塊形土器状を一括した。この仲間には口縁部から底部にかけて半円状を示す166、口辺が外反する161・162・164・165・171・僅の稜を残す167・169・170と体部と口辺部の境に凹みを有する163・172の4タイプが存在する。調整は一定しないが、外面をdのハケメ、cのヘラ調整、eのケズリにaのミガキ、fのナデを加えたものが多く、内面はaのミガキを基本にfのナデ、cのヘラ調整で仕上げている。

C群土器

高坏を本群とする。復元したものは24点あり、他に脚部29点と破片135点が検出されている。器形から8類に分類した。

C群1類（第13図175）『第18図版173～176』

外に大きく外反し、稜が顕著に発達する坏部に短身の脚部が特徴で、脚端が外にゆるやかに外曲するグループである。調整は外面の坏部をaのミガキ、fのナデを主体に脚部は継位のナデf¹にf²のナデやkの指ナデで仕上げている。内面は坏部がAのミガキを中心にして、a²、a³、a⁷を多用したものが多い。

C群2類（第13図179）『第18図版177～182、第19図版183～185』

B群3類の坏部を有する高坏で、脚部が比較的長身のグループである。調整は外面が継位を主にしたd¹のハケメ、a¹のミガキにf²のナデ、a²のミガキ等で施こし、内面はaのミガキの他、dのハケメ、cのヘラ調整、bのヘラナデで構成している。

C群3類（第14図）『第19図版183～188』

比較的大型の高坏で坏部の稜が未発達のグループである。調整は坏が内外面ともaのミガキを主体にfのナデが加わり、脚部は外面がdのハケメを主体にfのナデ、内面はbのヘラナデで仕上げている。

C群4類（第14図189）『第19図版189～192』

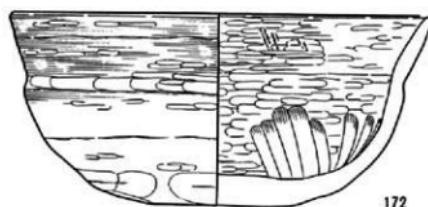
球形状の坏部に短身の脚を有する高坏のグループで外面はdのハケメにaのミガキ、fのナデ、内面はdのハケメの後にaのミガキを主要調整として施こすのが基本である。

C群5類（第14図193）『第20図版193』

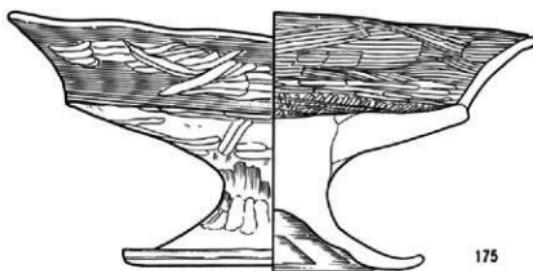
口辺部が坏部中央で「く」の字に折れる坏部を呈し、脚部の端が「ラッパ」状に開くのを特徴とする。坏部の外面はf²のナデとeのケズリ、内面は横位のミガキを主体にa²、a⁷、a⁵等で調整を施こし、脚部は継位のミガキa³にナデのf²を加えている。

C群6類（第15図194）『第20図版194』

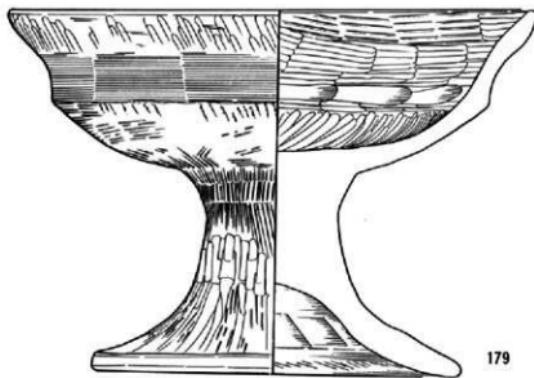
塊のB群14類の様な坏を呈し、接合部からすぐに脚端に開くのを特徴とする。坏部の調整は体部の外面に横位のハケメd²に部分的なミガキa²、a¹、a³を配し、内面をa²、a³のミガキから放射状ミガキa¹¹を施こしている。脚部は外面を鄭重に継位のミガキ、f²のナデを加えている。



172



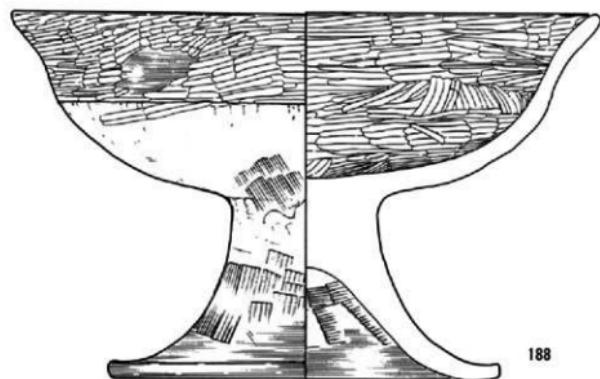
175



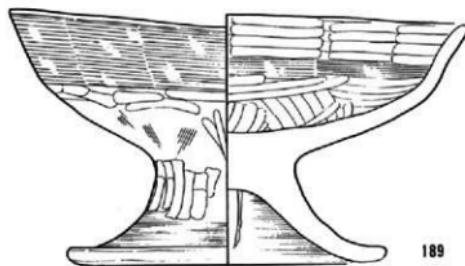
179



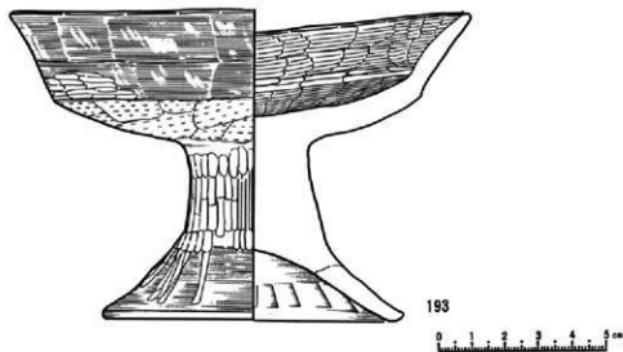
第13図 上新田A遺跡出土土器実測図 (9)



188



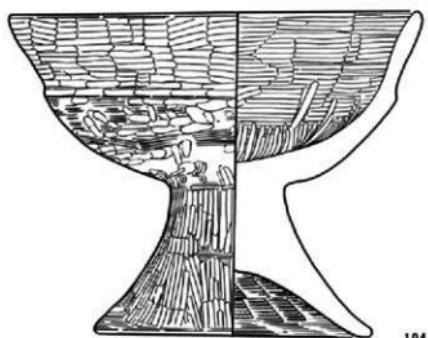
189



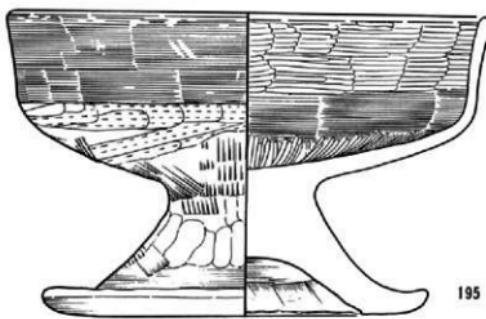
193

0 1 2 3 4 5 cm

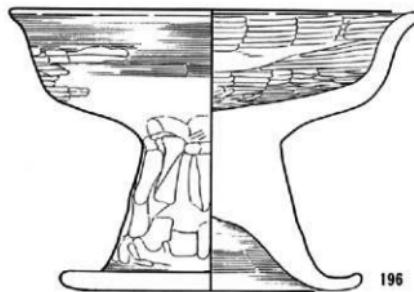
第14図 上新田A遺跡出土土器実測図 ⑩



194



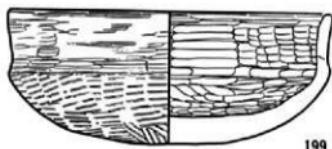
195



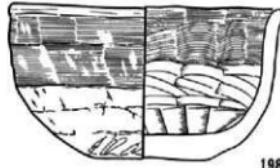
196



第15図 上新田A遺跡出土土器実測図 (1)



199



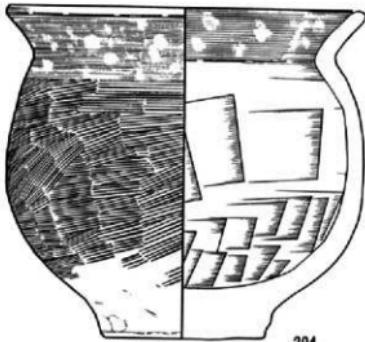
198



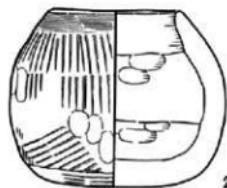
201



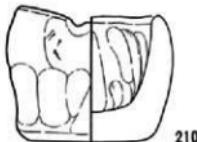
207



204



208



210



215



第16図 上新田A遺跡出土土器実測図 (12)

C群7類（第15図195）『第20図版195』

ほぼ直角に立ち上がる口辺部が特徴で、環部の接合から急速に外反する器形をなす。調整は外面をe²のケズリ→d¹～d³のハケメ→Jのオサエッケ→f²のナデ、a²のミガキの順で行い、内面はa¹～a³のミガキとf¹・f²のナデで施こしている。

C群8類（第15図196）『第20図版196』

ゆるやかに外反する口辺部が口縁部付近でさらに外反する環部から斜行する脚部が直角に折れて脚端をなす高杯である。この類だけが調整手法が雑であり、外面調整は部分的なaのミガキ、fのナデに脚部はJのオサエッケとKの指ナデを加えている。内面は環部がa²を主体としたミガキ、脚部はf²のナデを加えている。

D群土器

祭祀に使用したと推測される小型の土器群を一括した。この類の調整はこれまでの土器群よりも粗雑なものが多く、外面はdのハケメを中心とするグループとナデを中心とするグループに分けられる。内面もfのナデを主体にbのヘラナデ、cのヘラ調整を加えたグループとJのオサエッケを中心としたグループに区分される。器形から次の5類に分けた。

D群1類（第16図199・198）『第20図版197～200』

A群、B群の壇形土器を模倣した小型土器であり、4点検出されている。

D群2類（第16図201～203）『第20図版201～203』

小形の鉢を形どった小形土器であり、後述するF群土器を意識したものと考えられる。

D群3類（第16図204）『第20図版204～206』

壺形、甕形土器を模倣した小型土器で204は甕形、205・206は壺形土器とみられる。継位のハケメを調整とし、内面をbのヘラナデを示すなど調整も本来の甕・壺形土器に共通する。

D群4類（第16図207・208）『第20図版207、第21図版208・209』

小形の壺形土器で3点出土している。207は頸部から直角に立ち上がる短頸壺、208、209は内反する内傾小壺で、Dのハケメ調整を主体としている。

D群5類（第16図210・215）『第21図版211～217』

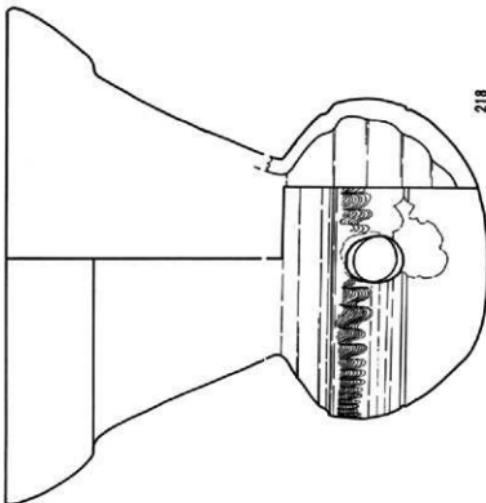
所謂「手づくね土器」と呼ばれる小型土器で8個の完形品の他に25点の同類破片がある。この種の土器は調査区の北側から集中して検出されたものである。調整はJのオサエッケとKの指ナデで施こしたもののが大半であった。

E群土器（第17図218）『第21図版218』

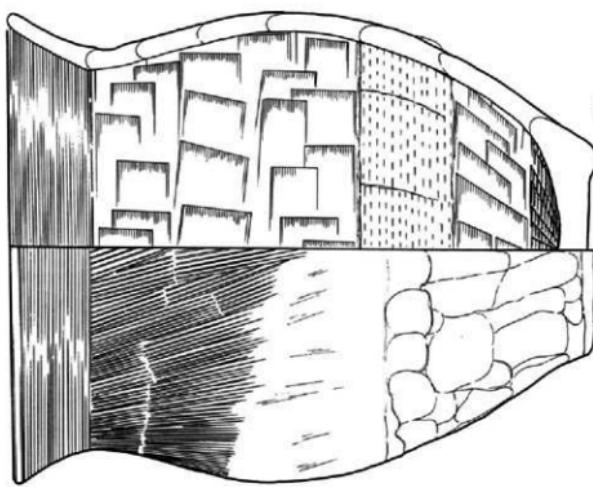
唯一の須恵器である。一条のクシ描波状文を施こし、胴部に穿孔を有するのが特徴で、孔内外面に漆が付着している。口縁部が失なわれた甕であり、陶邑窯址群編年の4段階に位置するものと推測される。



210



223



第17圖 上新田A遺跡出土土器素描圖(1)

F群土器

菱形土器と鉢形土器を一括したもので、器形の吟味から3類に分類される。調整は外面がdのハケメとIのナデ、内面が横位から斜位のヘラナデ^{b2}、b³にdのハケメを加えた手法が基本となる。

F群1類（第19図226）『第21図219～221、第26図版256～259』

短身で口縁部が外反する鉢形土器である。胴部を縱位のハケメd¹、頭部を横位のナデf²で調整し、内面は横位のナデf²、ヘラナデb²で仕上げている。226は両面をミガキを主体にしている。

F群2類（第17図223）『第21図版223』

前者のF群より器高長で外反する頭部から梢円形状に胴部がふくらむ形状を呈し、鉢よりも廣に分類した方が妥当と考える。調整は前類と同様である。

F群3類『第27図版263、第28図版266・267』

口縁部が外反する長身の菱形土器で堅穴住居跡から検出されたものである。外面をd¹、d³のハケメとf²のナデで施こし、内面はd²のハケメからb²、b³のヘラナデ、口縁をf²のナデで調整している。

G群土器

ハケメ調整を主体とした菱形土器に類似する壺形土器を一括した。次の3類に分類する。

G群1類（第18図224）『第22図版224』

口縁部が約90°近くに外反し、胴部が球形状を示すのが特徴で、外面をハケメ、内面を横位から斜位のヘラナデで調整を行っている。

G群2類（第18図225）『第22図版225、第27図版260』

口縁部が「く」字状に外反して、胴部が梢円状に球する。外面は縱位にハケメd¹を密に配し、底部をKの指ナデを縱位に施こしている。内面は横位と斜位のヘラナデを用い、口縁はf²のナデで調整を有している。

G群3類（第23図261）『第22図版226、第27図版261・262』

口径が広く、外反する口縁部から胴部にゆるやかに曲し、底部が小さく張り出すのを特徴している。器高が極端に短いことで鉢の仲間に加えるのが妥当であろう。

H群土器

壺形に属する土器を本群としたもので、aのミガキを主要調整としたものが多い。器形の特徴から4類に分ける。

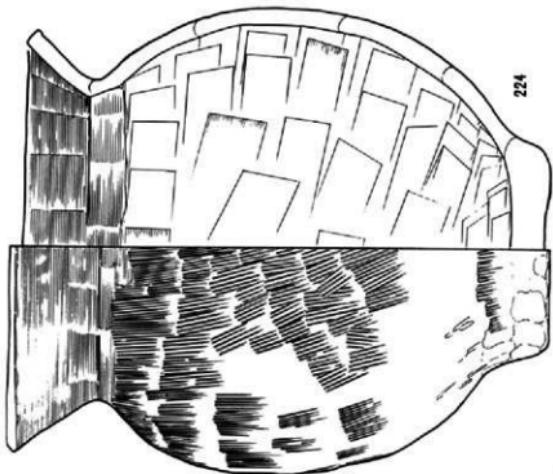
H群1類『第22図版227・第23図版230』

短頭を有する壺形土器で上胴部に最大径をもつ。227はdのハケメ、230はaのミガキを外面調整とし、内面は両者とも、dのハケメとbのヘラナデを施す。

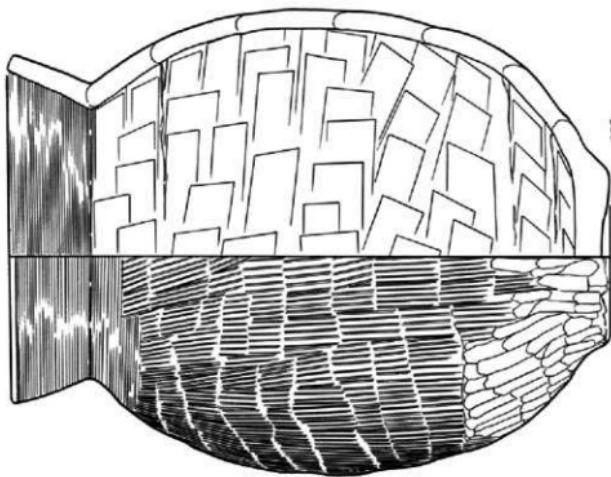
第18圖 上新田A遺跡出土土器実測図 14

0 1 2 3 4 5 cm

224



225



H群2類（第19図228、第20図232）『第22図版228、第23図版232・233』

直立する頸部から口縁部が外反する球形、もしくは胴上部に最大径を有する小形壺で、外面をaのミガキを主体にfのナデ、dのハケメ等で調整し、内面をbのヘラナデを主体にdのハケメfのナデを部分的に配している。

H群3類（第20図229）『第23図版229』

形状が「きんちゃく」状を示す壺形土器であり、他に類を見ないものである。外内部とも粗雑なdのハケメを有し、fのナデと内面上部にbのヘラナデを加えている。

H群4類『第23図版231』

短頸の大型壺形土器であり、唯一の復元土器である。外面をd¹～d³のハケメ調整後にa²、a³、a¹のミガキで全体を整えている。内面はdのハケメ、bのヘラナデを主体にfのナデで調整している。

I群土器（第21図234・235）『第23図版234、第24図版235』

壺形土器を一括した。2点あり、先の234は口縁部が欠損しているが長頸を有するとみられ、体部が横長の橢円形状を示す。後の235もやや外反気味の長頸壺で、234の胴部をつぶした様な形態を有し、底部に僅な凹みを有するのが特徴である。ここでは先者の丸底壺をI群1類、偏平底を呈する235をI群2類としておく。調整は両者とも同様な手法で施こしており、外面を頸部に縱のミガキa¹、胴部に横と斜のミガキa²、a³、底辺部にかけてa²を配している。内面はc²のヘラ調整からb²のヘラナデ、a²のミガキで仕上げている。

J群土器

瓶の仲間を一括するもので形態から大きく4類に分類する。調整は外面をハケメ、内面をハケメとヘラ調整を施すのが主要調整手法である。

J群1類（第22図236）『第24図236・237』

口縁部が外反し、鉢形を有するもので底部中央に単孔を有している。

J群2類（第22図238）『第24図版238・239』

底部からゆるやかに外開して、口縁部で僅に外反する短身の鉢形瓶である。

J群3類（第23図240）『第24図240』

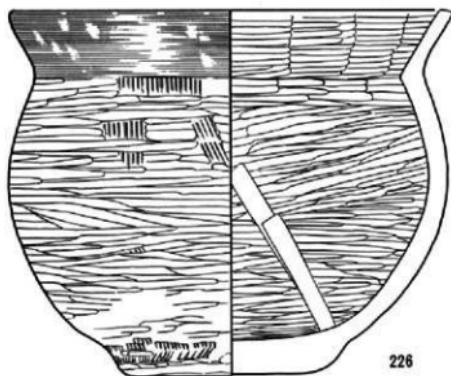
ヘルメットを逆にした様な器形を呈し、底部に多孔をもつ瓶である。

J群4類『第25図版241、第28図版264・265』

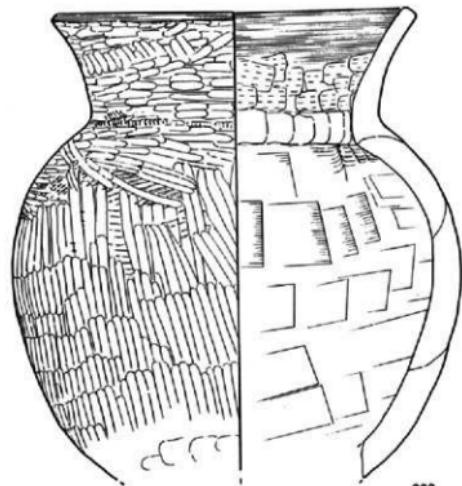
口縁部がゆるやかに外反し、胴部にふくらみを保ちながら底部に向かう大型の瓶である。

K群土器『第25図242』

片口を有する壺形土器で外面を縦のハケメd¹とナデ、内面をヘラナデb²・b³とfのナデで調整を施こしている。この時期の仲間としては例が少なく注目される。



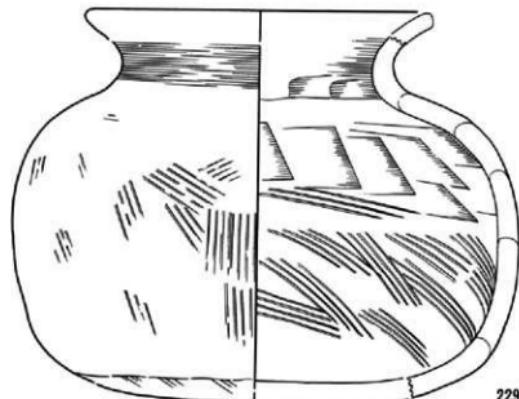
226



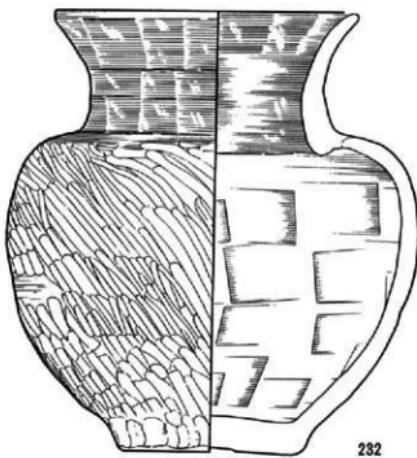
228



第19図 上新田A遺跡出土土器実測図 15



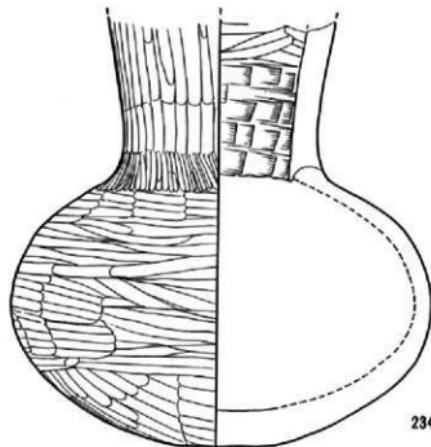
229



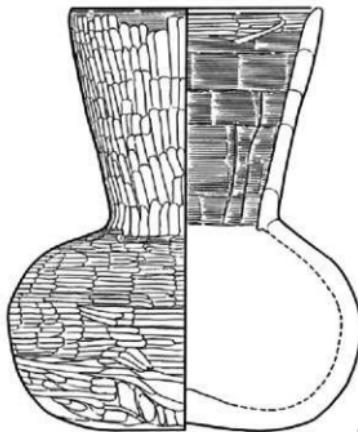
232



第20図 上新田A遺跡出土土器実測図 (16)



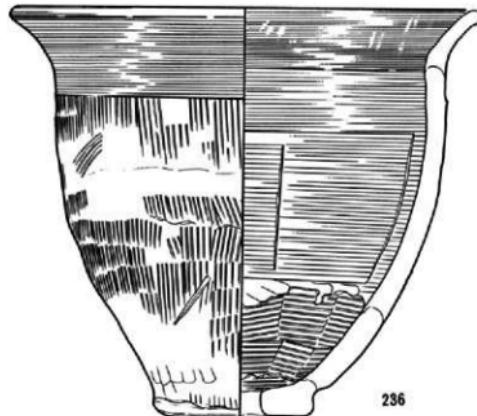
234



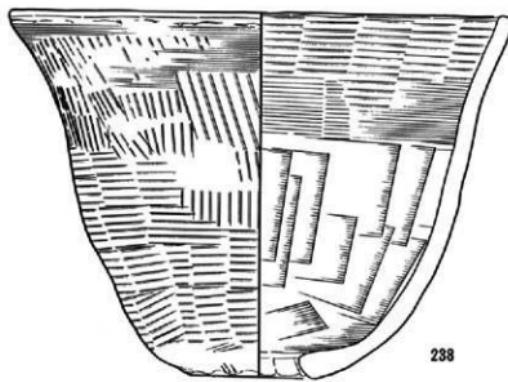
235



第21図 上新田A遺跡出土土器実測図 (1)



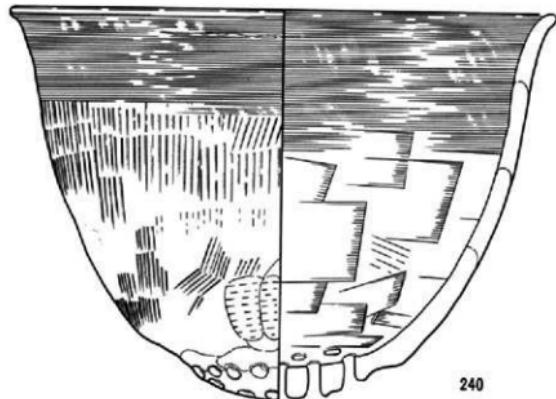
236



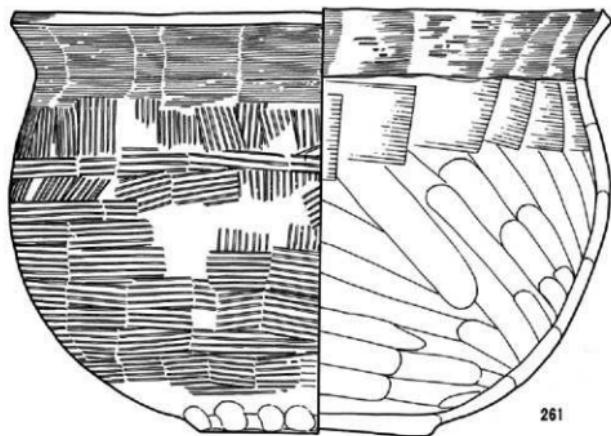
238



第22図 上新田A遺跡出土土器実測図 (18)



240



261



第23図 上新田A遺跡出土土器実測図(1)

第1表 上新田A遺跡出土土器計測表

通し No.	出土地区	調査 年次	口径	高径	底径	外 面 調 整	内 面 調 整	土器分類	備 考	遺物登録番号
1	SNI-8F	II 次	14.5	6.3		$d^2 + e^2 + c^2 + a^2 + f^2 + a^{12}$	$a^2 + a^3 + a^5$	A群1類		
2	SNI-7F	I 次	14.9	4.1		$e^2 + e^3 + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	A群1類		AZ116
3	SNI-7F	II 次	14.9	4.3		$e^1 + e^2 + c^2 + f^2$	$a^2 + a^3 + a^7 + a^4$	A群1類		AZ140
4	SNI-7F	II 次	15.0	4.0		$e^2 + e^3 + e^7 + a^3 + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	A群1類		AZ331
5	SNI-8F	II 次	14.2	3.9		$e + a^2 + a^3 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^4$	A群1類		AZ367
6	SNI-8F	II 次	14.0	4.7		$e + a^2 + a^7 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	A群1類	×のへラ書	AZ207
7	SNI-8F	II 次	13.8	4.5		$e^2 + f^1 + f^2$	$d^2 + a^2 + a^3$	A群1類		AZ7.12
8	SNI-8F	II 次	14.3	5.4		$e + a^2 + a^7 + f^2 + a^{12}$	$a^2 + a^1 + a^7$	A群1類	添付看(内)	AZ319・356
9	SNI-8F	II 次	13.3	4.3		$e^2 + e^3 + k + a^2$	$a^2 + a^3 + a^7 + a^{11}$	A群2類		AZ269
10	SNI-8F	I 次	13.0	4.9		$e + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	A群2類		AZ125
11	SNI-8F	I 次	12.0	4.5		$e^2 + e^3 + a^{12} + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	A群3類		AZ123
12	SNI-8F	I 次	12.8	4.3		$e^2 + e^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群3類		
13	SNI-8F	II 次	12.3	4.2		$f + e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	A群3類		AZ341
14	SNI-8F	II 次	11.9	4.1		$f^2 + f^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + c^2$	A群3類		AZ341
15	SNI-8F	II 次	12.3	4.4		$f^2 + f^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群3類		AZ296
16	SNI-8F	II 次	11.7	4.6		$d^2 + d^3 + a^2$	$d^2 + a^2 + a^4 + a^1$	A群3類		
17	SNI-7F	II 次	13.1	4.8		$e^2 + e^3 + a^{12} + f^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群3類		
18	SNI-7F	II 次	12.1	4.7		$e + a^7 + a^{12} + f^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	A群3類		AZ298
19	SNI-8F	II 次	13.0	4.4		$e + a^2$	$a^2 + a^3$	A群3類		
20	SNI-8F	I 次	11.0	4.7		$e + a^{12} + a^2 + a^3$	$a^2 + a^3 + a^7 + a^4$	A群4類		AZ184
21	SNI-8F	I 次	13.5	5.4		$e + a^7 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	A群4類	×のへラ書	AZ154
22	SNI-8F	II 次	13.2	5.1		$e + a^7 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	A群4類	添付看(底)	AZ156・292
23	SNI-8F	II 次	12.6	5.0		$? + a^{12} + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	A群4類	添付看(底)	AZ188
24	SNI-8F	II 次	17.6	5.3		$a^7 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^{11}$	A群4類		AZ408
25	SNI-8F	II 次	11.9	4.7		$e + c + a^7 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	A群4類		AZ214
26	SNI-8F	II 次	12.3	5.0		$d + a^2 + a^3$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群4類		
27	SNI-8F	II 次	12.0	4.9		$d^1 + e + a^7 + a^{12} + f^2$	$d^2 + a^{12} + a^7 + a^3$	A群4類	×のへラ書	AZ344
28	SNI-8F	II 次	13.0	5.6		$d^1 + d^2 + a^2 + a^3$	$d^2 + a^2 + a^7 + a^1$	A群4類		AZ370・371
29	SNI-8F	I 次	14.8	6.6		$d^2 + e^2 + f^2 + a^7$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群4類		AZ140・157
30	SNI-8F	II 次	14.8	5.9		$f + a^{12} + a^2$	$d^2 + a^2 + a^3$	A群4類		AZ317
31	SNI-7F	II 次	15.2	6.8	5.6	$e + a^{12} + a^2 + a^3$	$a^2 + a^7 + a^3$	A群4類		AZ322・364
32	SNI-7F	II 次	13.2	5.1		$e + a^{12} + a^2 + a^3$	$a^2 + a^3 + a^7$	A群5類	添付看(外)	AZ330・319
33	SNI-8F	II 次	12.6	4.8		$d^2 + a^{12} + a^3 + a^2 + a^7$	$d^2 + a^2 + a^3 + a^{11}$	A群5類		AZ374
34	SNI-8F	II 次	11.5	4.8		$e + a^2 + a^3 + a^{12}$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	A群5類		AZ419

通し No	出土 地区	調査 年次	口径	高径	底径	外 面 調 整	内 面 調 整	土器分類	備 考	遺物登録番号
35	SNI-8F	II 次	12.8	5.3		e+a ⁷ +a ⁹ +a ¹² +f ²	a ² +a ³ +a ¹¹	A群5類		AZ307
36	SNI-8F	II 次	11.7	4.9		d ² +d ³ +a ¹² +a ²	a ² +a ³	A群5類		AZ311
37	SNI-8F	II 次	12.6	5.0		e+a ⁷ +a ¹² +a ²	a ² +a ³ +a ⁷ +a ¹¹	A群5類		AZ436
38	SNI-8F	II 次	11.0	4.7		d ² +d ³ +a ²	a ² +a ³ +a ⁷	A群5類		AZ201
39	SNI-8F	I 次	12.6	5.5		c+a ⁷ +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹¹	A群5類		AZ155
40	SNI-8F	II 次	12.1	5.2		e+a ⁷ +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ⁷	A群5類		
41	SNI-8F	II 次	13.0	4.4		e+a ¹² +a ³ +a ²	a ² +a ⁷ +a ²	A群5類		AZ92
42	SNI-8F	II 次	13.1	4.5		a ⁷ +a ¹² +a ² +a ³	a ² +a ⁷ +a ²	A群6類		AZ405
43	SNI-8F	II 次	12.1	4.0		e+d+f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹¹	A群6類		AZ282
44	SNI-8F	II 次	14.4	5.2		d ² +d ³ +a ² +f ²	a ² +a ¹¹	A群6類	漆付着(内)	AZ316
45	SNI-8F	II 次	13.7	4.4		e+a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹	A群6類		AZ181
46	SNI-8F	II 次	13.6	5.3		e+a ⁷ +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ⁷	A群6類		
47	SNI-8F	II 次	11.4	4.8		a ⁷ +a ² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹¹	A群6類		AZ322
48	SNI-8F	I 次	11.5	4.9		d ¹ +d ² +a ⁷ +a ¹² +f ² +a ²	a ¹² +a ⁷ +a ²	A群6類		AZ105
49	SNI-7F	II 次	11.5	4.0		a ⁷ +a ¹² +a ²	a ² +a ⁷ +a ²	A群6類		
50	SNI-7F	I 次	12.0	4.8		a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ⁷ +a ¹¹	A群6類		AZ76
51	SNI-7F	II 次	12.4	4.6		e+a ¹² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹¹ +f ²	A群6類		AZ404
52	SNI-8F	II 次	11.0	4.8		a ¹² +a ²	d ² +a ² +a ³ +a ¹²	A群6類	漆付着(外)	AZ132
53	SNI-8F	II 次	13.7	5.1		d ² +a ⁷ +a ²	a ² +a ³ +c ²	A群7類		AZ341
54	SNI-8F	II 次	12.0	5.8		k+a ⁷ +a ⁹ +f ²	f ² +a ¹¹ +c ²	A群7類		
55	SNI-8F	II 次	11.0	4.1		e ² +d ² +a ¹² +f ²	a ² +a ⁷ +a ¹¹	A群8類		AZ245
56	SNI-8F	II 次	12.5	3.7		e+d ² +f ²	f ² +a ⁷ +a ¹¹	A群8類	×のへラ書 漆付着(底)	AZ374
57	SNI-8F	II 次	12.3	3.5	不明(マフツ)		a ² +a ⁷ +a ²	A群8類		AZ189
58	SNI-8F	II 次	11.7	4.5		c ² +c ³ +a ¹² +a ² +f ²	a ² +a ³ +a ⁷	A群9類		AZ317
59	SNI-8F	II 次	10.8	3.9		d ² +d ³ +a ¹² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹	A群9類		AZ227
60	SNI-8F	I 次	14.8	5.3		d ² +d ¹ +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ¹	B群1類		AZ138
61	SNI-8F	I 次	15.3	5.4		c+a ¹² +e ² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ¹	B群1類		
62	SNI-8F	I 次	14.6	4.0		e ² +e ³ +a ² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ¹	B群2類		AZ374
63	SNI-8F	I 次	14.3	4.9		e+d ¹ +d ² +d ³ +a ²	a ² +a ⁷ +a ²	B群2類	漆付着(底)	
64	SNI-8F	I 次	12.8	5.0		e+a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ³ +a ²	B群2類	漆付着(内)	
65	SNI-8F	I 次	13.6	4.3		c+d ² +e+f ² +a ²	a ² +a ⁷ +c ² +a ³	B群2類		AZ303
66	SNI-8F	I 次	13.1	4.9		e+a ¹² +f ²	a ² +a ³ +a ¹	B群2類		
67	SNI-8F	I 次	12.6	4.9		c+a ¹ +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +c ²	B群2類	漆付着(内)	AZ423
68	SNI-8F	I 次	12.2	3.5		d ¹ -d ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ¹²	B群2類	漆付着(内)	AZ306
69	SNI-7F	I 次	11.6	3.9		d ¹ -d ² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ²	B群3類		AZ295
70	SNI-7F	I 次	11.4	4.0		a ² +a ¹² +f ² +a ²	a ² +a ⁷ +a ²	B群3類		AZ85

通 号	出土 地区	調査 年次	口径	高径	底径	外 面 調 整	内 面 調 整	土器分類	備 考	遺物登録番号
71	SNI-8F	I 次	12.5	4.6		$d^1 \sim d^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^1$	B群3類		AZ134
72	SNI-8F	I 次	11.9	4.3		$c^1 \sim c^2 + e^2 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	B群3類	/のへラ書	AZ336
73	SNI-8F	II 次	11.7	4.2		$j + k + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	B群3類	漆付着(内)	AZ334
74	SNI-8F	II 次	9.8	4.2		$e^2 + e^3 + f^2$	$a^2 + f^2$	B群3類	漆付着(内)	AZ216
75	SNI-8F	I 次	10.6	3.0		$k + f^2$	$f^2 + f^3$	B群3類	漆付着(内)	AZ127
76	SNI-8F	II 次	12.5	4.9		$e^1 \sim e^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^{12}$	B群4類	×のへラ書	AZ319
77	SNI-8F	II 次	14.6	5.6		$d^1 \sim d^2 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^2$	B群4類		AZ435・426
78	SNI-8F	II 次	11.9	3.9		$c + a^{12} + a^1 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^2$	B群4類	漆付着(底)	AZ230
79	SNI-7F	II 次	12.8	5.3		$e^1 \sim e^2 + d^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + c^2 + c^3$	B群4類		AZ234
80	SNI-8F	I 次	11.1	5.0		$c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群4類	×のへラ書	AZ129
81	SNI-7F	II 次	12.5	5.2		$c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1 + a^3$	B群4類		AZ100
82	SNI-7F	II 次	12.3	4.1		$e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群4類		AZ360
83	SNI-7F	II 次	12.5	4.1		$e^1 \sim e^2 + a^7 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1 + a^3$	B群4類		AZ376
84	SNI-8F	I 次	11.2	4.7		$d^1 \sim d^2 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12}$	B群4類		AZ122
85	SNI-8F	II 次	12.0	5.0		$a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^2$	B群4類		
86	SNI-8F	II 次	10.8	3.8		$d^1 \sim d^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群4類		AZ305
87	SNI-7F	II 次	11.3	4.0		$c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1 + a^3$	B群4類		AZ371
88	SNI-7F	II 次	11.4	5.1		$e^1 \sim e^2 + a^{11} + a^2$	$f^2 + a^2 + a^2 + a^{12}$	B群4類		AZ361
89	SNI-8F	I 次	10.2	4.6		$k + a^2$	$f^2 + a^{12} + a^1 - a^2$	B群4類	漆付着(外)	AZ120
90	SNI-8F	II 次	12.0	5.4		$d^2 + d^3 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + c^3$	B群5類	漆付着(内)	AZ335
91	SNI-8F	II 次	11.5	4.6		$d^1 \sim d^2 + f^2$	$f^2 + f^3 + c^3$	B群5類		AZ173
92	SNI-8F	II 次	12.0	4.3		$a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + f^2$	B群5類		AZ388
93	SNI-8F	I 次	11.2	4.8		$d^1 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^1 + a^3$	B群5類		AZ86・99
94	SNI-8F	II 次	12.7	4.9		$e^1 \sim e^2 + a^2$	$a^2 + a^{12} + d^2 + c^3$	B群5類	漆付着(外)	AZ235
95	SNI-8F	II 次	10.6	4.0		$o^1 \sim o^2 + a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^{12} + a^1 + a^2$	B群5類		AZ354
96	SNI-8F	I 次	11.5	4.8		$e^1 \sim e^2 + f^2$	$d^2 + f^2 + a^2 + a^3 + a^1$	B群5類		AZ118
97	SNI-8F	II 次	15.6	6.6		$f^2 + a^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^1$	B群5類	漆付着	AZ240
98	SNI-8F	I 次	12.0	4.3		$e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^{12} + a^{11}$	B群5類		AZ139
99	SNI-8F	II 次	11.5	4.3		$c^3 + c^4 + a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + c^3 + a^3$	B群5類		AZ126
100	SNI-8F	II 次	16.5	7.2		$c^1 \sim c^2 + a^7 + a^2 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + c^3 + a^3$	B群5類		AZ352
101	SNI-8F	II 次	13.0	4.3		$e^1 \sim e^2 + a^{12} + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^2$	B群5類		
102	SNI-8F	II 次	12.5	5.3		$c^2 + a^7 + a^{12} + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群5類	×のへラ書	AZ187
103	SNI-8F	II 次	13.5	5.1		$e + a^7 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^2 + a^1$	B群5類		AZ426
104	SNI-8F	II 次	11.7	4.6		$e^1 \sim e^2 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^2$	B群5類		AZ433
105	SNI-8F	II 次	13.6	5.0		$e + c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^2 + a^1$	B群5類		AZ409
106	SNI-8F	II 次	12.6	5.6		$e + d + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^2 + a^7$	B群5類	漆付着(外)	AZ203

No.	出土地区	調査年次	口径	底径	外面調整	内面調整	土器分類	備考	遺物登録番号
107	SNI-8F	II次	12.5	4.0	$e^1 - e^3 + a^{12} +$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1 + f^2$	B群5類		AZ332
108	SNI-8F	II次	12.2	4.6	$e^1 - e^3 + e^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + c^3$	B群5類		
109	SNI-8F	II次	12.0	6.0	$c + d + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群5類		AZ326
110	SNI-8F	II次	15.2	6.0	$c + d + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群5類	添付着(底)	AZ182
111	SNI-8F	II次	12.5	5.8	$d^1 - d^3 + f^2$	$f^2 + c^2 + c^3 + f^3$	B群5類		AZ370・396
112	SNI-8F	II次	12.5	5.0	$c + a^7 + a^{12} + d^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群5類	添付着	AZ380
113	SNI-8F	II次	12.0	4.4	$d^1 - d^3 + e^1 - a^{12} + a^2$	$a^1 + a^7 + a^3 + a^1$	B群5類	添付着	AZ342
114	SNI-8F	II次	12.8	5.4	$e^1 - e^3 + a^{12} + f^2 + a^2$	$f^2 + a^7 + a^{11}$	B群5類		AZ307
115	SNI-8F	II次	12.8	5.8	$d^2 + e^1 + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^1$	B群6類	×のへラ書	AZ420
116	SNI-8F	II次	12.2	4.8	$e + a^{12} + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + f^2$	B群6類	×のへラ書	AZ371
117	SNI-8F	II次	13.0	4.8	$d^1 - d^3 + f^2$	$f^2 + a^7 + f^2$	B群6類	添付着	AZ381
118	SNI-8F	II次	12.6	4.7	$d^1 - d^3 + k + f^2$	$f^2 + c^2 + f^2$	B群6類		
119	SNI-8F	II次	11.2	4.8	$e^1 - e^3 + d^1 - d^3 + a^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{12}$	B群6類	添付着	AZ329
120	SNI-8F	II次	12.0	4.4	$d^1 - d^3 + e^1 - e^3 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群6類		AZ180
121	SNI-8F	II次	13.4	5.5	$d + e^1 - e^3 + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + a^2 + a^1$	B群6類		AZ450
122	SNI-8F	II次	12.3	4.9	$e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群6類		AZ375
123	SNI-8F	II次	12.4	4.8	$c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群6類	添付着	AZ325
124	SNI-8F	II次	13.2	4.9	$d^1 + c + a^{12} + a^7 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群6類		
125	SNI-7F	II次	14.5	6.6	$e^1 - e^3 + a^{12} + a^2$	$f^2 + a^7 + a^7 + a^2$	B群6類		AZ219
126	SNI-8F	I次	12.5	4.6	$e + k + f^2 + a^2$	$d^2 + a^7 + f^2 + d^1$	B群6類	添付着	AZ164
127	SNI-8F	II次	13.5	4.9	$e + a^{12} + a^2 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群6類		AZ357
128	SNI-8F	II次	12.3	4.7	$e^1 - e^3 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群6類		AZ231
129	SNI-8F	II次	11.7	4.2	$e^1 - e^3 + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群7類	添付着	AZ336
130	SNI-8F	II次	11.3	3.6	$e^1 - e^3 + a^2 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + c^3 + f^2$	B群7類		AZ319
131	SNI-8F	II次	11.8	3.8	$d^1 - d^3 + e^1 + e^3 + a^2$	$a + 不明(マメツ)$	B群7類	×のへラ書	
132	SNI-8F	II次	12.3	4.6	$e^1 - e^3 + a^{12} + d^2 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^{11}$	B群7類	/のへラ書	AZ429
133	SNI-8F	II次	11.0	4.8	$d + e^1 - e^3 + a^{12} + f^2$	$f^2 + c^2 + f^3$	B群7類	添付着	AZ345
134	SNI-8F	II次	12.0	4.4	$e^1 - e^3 + f^2$	$f^2 + a^7 + a^3$	B群8類		AZ412
135	SNI-8F	II次	11.7	4.1	$e^1 - e^3 + d^1 + f^2$	$a^2 + f^2 + c^3$	B群8類		AZ217
136	SNI-8F	II次	13.0	3.9	$e + a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群8類		AZ403
137	SNI-8F	II次	12.6	4.5	$e + a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群8類		AZ248
138	SNI-8F	I次	11.6	4.8	$e^2 + f^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群8類		AZ159
139	SNI-8F	I次	11.6	4.0	$e^1 - e^3 + f^2$	$d^2 + d^3 + f^2 + a^{11}$	B群8類		AZ132
140	SNI-8F	II次	11.1	4.8	$e^1 - e^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群8類	/のへラ書	AZ285
141	SNI-8F	II次	12.2	4.3	$c + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群8類		AZ323
142	SNI-8F	II次	11.2	4.4	$e^1 - e^3 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群8類	添付着	AZ304

通L No	出土 地区	調査 年次	口径	高径	底径	外面調整	内面調整	土器分類	備考	遺物登録番号
143	SNI-8F	II次	12.2	3.9		$d^3 + c^1 + c^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群8類		AZ76
144	SNI-8F	II次	11.4	4.5		$e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群8類		
145	SNI-8F	II次	12.1	4.1		$e^1 - e^2 + a^{12} + f^2$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	B群8類	漆付着	AZ317
146	SNI-8F	I次	11.9	4.3		$d^1 - d^2 + a^2 + f^2$	$a^2 + a^7 + f^1 + a^3$	B群8類		AZ107
147	SNI-8F	II次	12.7	4.8		$e^3 - e^2 + c^1 - e^2 + a^3 + a^2$	$a^2 + a^7 + f^1 + a^3$	B群8類		AZ265
148	SNI-7F	II次	12.2	4.9		$d + e + a^2 + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群9類		AZ241
149	SNI-8F	I次	12.8	4.4		$e + a^{12} + a^2 + a^2 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群9類		AZ132
150	SNI-8F	II次	11.9	4.3		$e + f^2 + a^2 + a^7$	$a^2 + f^2 + a^2$	B群9類	漆付着	
151	SNI-8F	II次	12.9	4.0		$a + 不明(マツツ)$	$a^2 + 不明(マツツ)$	B群10類		
152	SNI-8F	II次	12.2	3.8		$a + 不明(マツツ)$	$a + 不明(マツツ) + a^{11}$	B群10類	漆付着	AZ327
153	SNI-8F	II次	12.4	4.2		$d + c + a^{12} + a^2 + a^2$	$a^2 + a^3$	B群11類	漆付着	AZ432
154	SNI-8F	I次	10.3	4.3		$c + d^1 + d^2$	$a^2 + a^{11}$	B群11類		AZ148
155	SNI-8F	II次	10.4	4.8		$c + d + e + f^2 + a^2$	$a^2 + a^3 + a^{11}$	B群11類		AZ103
156	SNI-8F	II次	11.2	4.4		$d^2 + f^2 + f^2$	$f^2 + f^3$	B群11類		AZ382
157	SNI-8F	I次	13.0	4.3		$e^1 - e^2 + c + f^2 + a^2$	$f^2 + a^2 + a^{11}$	B群12類		AZ84
158	SNI-8F	II次	12.6	5.3	6.0	$k + f^2 + f^2$	$f^2 + f^2 + b^2$	B群13類		AZ213
159	SNI-8F	II次	12.7	3.1	5.0	$d^1 - d^2 + c + k + f^2 + f^2$	$f^2 + b^2 + b^2$	B群13類		AZ332
160	SNI-8F	II次	12.5	4.4	4.3	$d^1 + d^2 + k + f^2 + f^2$	$f^2 + a^7 + f^2$	B群13類	漆付着	AZ294
161	SNI-8F	II次	12.2	6.2		$d + a^1 - a^2 + a^{12} + f^2$	$f^2 + a^2 + a^{11}$	B群14類	漆付着	AZ370・371
162	SNI-8F	II次	11.6	6.3		$d^1 + c^1 + f^2 + f^2$	$f^2 + b^2 + c^3$	B群14類		AZ178
163	SNI-7F	II次	12.2	5.2		$d^1 - d^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^{11}$	B群14類		AZ482
164	SNI-7F	II次	12.0	4.9		$d + c + a^{12} + f^2 + a^3$	$a^2 + a^3 + a^1$	B群14類		
165	SNI-8F	II次	11.2	5.3		$e + a^7 + a^{12} + f^2 + a^2$	$d^2 + a^3 + a^2 + a^2$	B群14類	漆付着	AZ421
166	SNI-8F	II次	12.2	5.4		$e^2 + a^{12} + f^2 + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群14類	漆付着	AZ242
167	SNI-8F	II次	12.5	5.1		$c + f^2$	$f^2 + a^7 + a^3 + c$	B群14類	(毛々痕)	
168	SNI-8F	II次	12.0	5.2		$e + a^{12} + a^2$	$a^2 + a^7 + a^3$	B群14類	漆付着	AZ233
169	SNI-8F	II次	11.7	6.0		$d^2 + e^1 - e^2 + f^2$	$f^2 + a^2 + a^2 + a^{11}$	B群14類		AZ413
170	SNI-8F	II次	11.6	4.8		$e + a^{12} + a^2 + f^2$	$a^2 + a^2 + a^3$	B群14類	毛々痕	AZ211
171	SNI-7F	II次	13.4	6.2		$e + a^{12} + f^2$	$a^2 + a^3 + b^2 + f^2$	B群14類		
172	SNI-7F	II次	12.8	5.4		$e + a^{12} + a^2 + a^7$	$a^2 + a^7 + c^1 + d^1 + f^2$	B群14類	漆付着(内)	AZ337
173	SNI-7F	II次	19.0	9.9	11.9	$a^2 + a^7 + a^{12} + a^3$	$d^2 + a^2 + a^1 + a^1$	C群1類	漆付着(内・外)	AZ302
174	SNI-8F	II次	13.8	-	-	$a^2 + a^3 + d^{11}$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	C群1類		
175	SNI-8F	II次	16.2	6.8	9.1	$f^2 + a^2 + a^3 + a^3 + f^2$	$a^2 + a^3 + a^3 + f^2$	C群1類		AZ434
176	SNI-8F	I次	15.5	8.4	11.2	$f^2 + a^2 + a^7 + d^1 + f^2$	$a^2 + a^2 + a^2 + a^2$	C群1類		AZ119
177	SNI-8F	II次	16.0	8.9	9.2	$f^2 + a^2 + d^2 + a^{12}$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	C群2類		AZ177
178	SNI-8F	II次	15.0	8.6	9.2	$f^2 + a^2 + d^1 + a^1$	$a^2 + a^7 + a^3 + a^1$	C群2類	漆付着	AZ302

通 No	出土地区	調査 年次	口径	高さ	底径	外面調査	内面調整	土器分類	備考	遺物登録番号
179	SNI-8F	II次	16.2	10.3	11.1	$f^2+a^2+d^2+a^1$	$d^4+a^2+a^7+a^3+d^3+d^4$	C群2類		AZ252
180	SNI-8F	I次	14.4	7.0	9.4	$f^2+a^2+a^7+a^{12}+d^2+d^1$	$a^2+a^7+a^{12}+d^2$	C群2類		AZ159
181	SNI-8F	II次	14.9	8.4	9.2	$d^1+a^2+a^{12}+a^7$	$a^2+a^7+a^{11}+d^2+f^2$	C群2類		
182	SNI-8F	II次	14.5	9.8	10.8	$d^1+d^2+a^2+a^1$	$a^2+a^7+a^3+d^2+f^2$	C群2類		AZ321
183	SNI-8F	II次	15.5	9.1	10.7	$d^2+a^2+a^{12}+a^1$	$a^2+a^7+a^3+f^2$	C群2類		AZ254
184	SNI-8F	II次	14.8	8.9	10.1	$a^2+a^2+e^2+a^1$	$a^2+a^7+a^3+a^1+f^2$	C群2類		AZ431・145
185	SNI-8F	II次	14.4	-	-	$f^2+d^2+d^1+a^{12}$	$a^2+a^3+a^2$	C群2類		AZ183
186	SNI-8F	II次	18.5	8.8	11.0	$f^2+d^1+d^2+d^3+a^2+a^{12}$	$a+不明(マメツ) d^2$	C群3類		AZ168
187	SNI-8F	II次	15.7	-	-	$f^2+a^2+a^2+a^{12}$	$a^2+a^7+a^3+a^1$	C群3類	漆付着	AZ215
188	SNI-8F	I次	17.2	11.0	12.0	$d^1+d^2+a^2+f^2+f^2$	$a^2+a^3+a^7+a^3+d^2$	C群3類		AZ96
189	SNI-8F	II次	14.0	7.0	9.6	$d^1+a^1+f^2+f^2$	$a^2+a^7+a^3+a^1+d^2$	C群4類		AZ320
190	SNI-8F	II次	14.5	-	-	$d^2+d^3+f^2+a^2$	$a^2+a^3+a^5$	C群4類		AZ178
191	SNI-7F	I次	16.0	9.4	9.7	$d^1+d^2+a^2+a^1+a^{12}$	$a^2+a^3+a^1+d^2$	C群4類		AZ82
192	SNI-8F	II次	15.7	-	-	$d^1+d^2+f^2+a^2+a^{12}$	$a^2+a^3+a^1$	C群4類		
193	SNI-8F	I次	14.0	8.9	9.0	$d^1-d^2+e^2+f^2+a^2+a^3$	$a^2+a^1+a^3+a^1$	C群5類		AZ142・135
194	SNI-8F	I次	12.3	9.1	8.3	$d^1-d^2+a^2+a^1+a^{12}$	$a^2+a^3+a^{11}+d^2+f^2$	C群6類		AZ131
195	SNI-8F	II次	15.2	8.6	11.8	$d^1-d^3+f^2+a^{12}+j$	$a^2+a^3+a^1+f^2$	C群7類		AZ392
196	SNI-8F	II次	12.4	7.8	8.3	$f^2+a^7+f^3+j+k$	$a^2+a^7+a^1+f^1$	C群8類		AZ83
197	SNI-8F	II次	8.6	3.8		$c+f^2+a^{12}$	$d^2+a^7+d^3+a^3$	D群1類		AZ333
198	SNI-8F	II次	8.8	4.2		f^2	$f^2+c^2+c^1$	D群1類		AZ358
199	SNI-8F	I次	10.0	304		$d^1-d^2+a^7+f^2$	$a^2+a^7+a^2$	D群1類		AZ166
200	SNI-8F	II次	7.2	3.1		f^2	b^2	D群1類		AZ416
201	SNI-8F	I次	10.3	4.9	4.7	$f^2+a^{12}+a^1$	$f^2+b^2+b^3$	D群2類		AZ79
202	SNI-8F	II次	9.7	6.2	5.2	$c^3+d^2+f^2$	$f^2+b^2+b^1$	D群2類	漆付着(内)	AZ384
203	SNI-8F	II次	11.0	6.8	4.3	d^1+f^2	$f^2+b^2+b^3$	D群2類	漆付着(内)	AZ77
204	SNI-7F	II次	11.0	9.6	5.2	$d^2+d^2+f^2$	$f^2+b^2+b^3$	D群3類		AZ255
205	SNI-7F	II次	9.5	10.0	5.3	d^2+f^2	$f^2+c^2+d^2+d^3$	D群3類		AZ256
206	SNI-8F	II次	8.2	8.2	4.0	$d^1+d^2+f^2$	$f^2+b^2+b^3$	D群3類		AZ209
207	SNI-8F	II次	5.9	7.7	4.0	$d^1+f^2+f^2$	f^2+f^3	D群4類	漆付着(外)	AZ239
208	SNI-8F	I次	4.0	5.0	4.2	$d^1-d^2+f^2$	f^2+k	D群4類		AZ149
209	SNI-8F	II次	3.0	3.2		f^2	f^2+k	D群4類		AZ268
210	SNI-8F	I次	5.2	4.0	3.9	f^1+f^2+k	f^2+k	D群5類a		AZ128
211	SNI-8F	II次	5.0	3.8	3.3	f^2+k	f^2+c^3	D群5類a		
212	SNI-8F	I次	4.3	3.8	2.5	$k+c^2$	k	D群5類a		AZ160
213	SNI-8F	II次	4.1	2.5	3.5	f^2	k	D群5類a		AZ279
214	SNI-8F	II次	5.2	3.1	4.5	f^2	k	D群5類b		AZ277

通し No	出土地区	調査 年次	口径	高径	底径	外 面 調 整	内 面 調 整	土器分類	備 考	遺物登録番号
215	SNI-8F	II次	5.6	3.4	6.0	f ² +k	k	D群5類b		
216	SNI-8F	II次	5.5	2.8	4.1	f ² +k	f ² +k	D群5類b		AZ275
217	SNI-8F	II次	4.9	3.1	3.7	f ² +k	k	D群5類b	添付着(内)	AZ418
218	SNI-8F	II次				クシ彫痕状文	ロク口	E群	添付着(内)	
219	SNI-8F	II次	12.1	12.8	6.2	d ¹ +d ⁹ +f ²	f ² +b ² +b ³	F群1類	添付着(内)	AZ250
220	SNI-8F	I次	12.6	10.0	6.6	d ¹ +f ²	f ² +b ²	F群1類		AZ91
221	SNI-8F	II次	(10.3)	9.8	6.6	d ¹ +f ²	f ² +b ² +b ³	F群1類		AZ228
222	SNI-8F	II次	13.5	17.1	5.9	f ² +d ¹ +d ⁸	f ² +b ² +b ³ +c ²	F群2類		AZ351
223	SNI-8F	II次	14.2	17.5	6.0	f ² +d ¹ +d ⁸	f ² +b ² +b ³ +c ²	F群2類		AZ208
224	SNI-8F	II次	12.2	15.8	6.1	f ² +d ¹	f ² +b ² +b ³	G群1類		
225	SNI-8F	II次	10.7	17.8	5.5	f ² +d ² +d ⁸	f ² +b ²	G群2類		AZ386
226	SNI-8F	II次	13.8	10.8	6.2	f ² +a ⁷ +d ¹ +d ⁹ +a ¹²	a ² +a ³ +a ⁷	G群3類		AZ293
227	SNI-8F	II次	9.2	13.6	6.2	d ¹ ~d ⁹ +f ² +d ³ +a ⁷	f ² +d ² +d ⁸ +b ²	H群1類		AZ348
228	SNI-8F	II次	10.3	-	-	f ² +d ¹ ~d ⁹ +a ⁷ +a ¹²	f ² +d ² +b ²	H群2類		
229	SNI-8F	II次	(9.5)	11.0	10.5	f ² +d ²	f ² +d ² +b ² +b ³	H群3類		
230	SNI-8F	II次	13	-	-	f ² +d ² +a ⁷ +a ¹²	f ² +d ² +b ² f ²	H群1類		AZ276
231	SNI-8F	II次	14.7	(29.0)	-	f ² +d ¹ ~d ⁹ +a ¹² +a ¹ +a ³	f ² +d ² +b ² +b ³	H群4類		
232	SNI-7F	II次	9.1	13.4	5.3	f ² +a ⁷ +a ¹	f ² +b ² +b ³ +f ²	H群2類		AZ141
233	SNI-7F	II次	9.9	14.4	5.3	f ² +d ² +a ¹²	f ² +b ² +b ³	H群2類		AZ205
234	SNI-8F	I次	-	(12.4)	-	a ¹ +a ² +a ³ +a ¹²	c ² +a ² +b ²	I群1類		AZ88
235	SNI-8F	II次	7.7	12.3	-	a ¹ +a ² +a ³ +a ¹²	c ² +a ² +b ²	I群2類		AZ206
236	SNI-8F	II次	14.0	12.1	4.3	f ² +d ¹ +d ²	f ² +b ² +d ²	J群1類		AZ220
237	SNI-8F	I次	17.3	15.3	6.3	f ² +d ¹	f ² +d ² +c ²	J群1類		AZ163
238	SNI-8F	I次	15.7	10.1	4.6	f ² +d ¹ +d ²	f ² +d ² +b ²	J群2類		AZ80
239	SNI-8F	I次	16.2	9.7	5.6	f ² +d ¹ ~d ²	d ¹ +d ² +b ² +b ³ +e ²	J群2類		AZ147
240	SNI-8F	I次	16.5	11.4	-	f ² +d ¹ +d ²	f ² +b ² +c ² +c ³	J群3類		AZ77
241	SNI-8F	II次	20.3	27.3	8.5	f ² +a ² +d ¹ +d ² +a ¹	f ² +c ² +d ² +d ²	J群4類		AZ272
242	SNI-8F	I次	(13.0)	-	-	f ² +d ¹ ~d ²	f ² +d ² +d ³	K群		AZ97
243	SNI-8F	II次							木材	
244	SNI-8F	II次							木材	
245	SNI-8F	II次							木材	
246	D Y 35	I次	17.6	5.3	-	f ² +d ² +a ¹² +a ¹ +a ²	a ² +a ¹ +a ³	A群1類		AZ35
247		I次	15.6	4.8	-	a ² +a ¹² +a ³	a ² +a ³ +a ⁷ +a ¹²	A群1類		
248	H Y 2	I次	12.2	4.8	-	e ² +e ³ +f ² +a ² +f ² +d ²	a ² +a ³ +a ¹	A群4類		AZ10
249	H Y 2	I次	12.0	4.8	-	c ² +c ³ +a ⁷ +a ¹² +a ³	a ² +f ² +c ²	A群3類		AZ67
250	H Y 2	I次	16.5	6.3	-	d ² +d ³ +f ² +a ²	d ² +a ² +a ⁷ +a ²	A群4類		AZ29

地點 No	出土地区	調査 年次	口径	高径	底徑	外面調整	内面調整	土器分類	備考	遺物登録番号
251	D Y 62	1次	11.7	4.3		$e+a^2+f^2$	$c^2+c^2+a^2$	B群8類		AZ 61
252	D Y 17	1次	12.8	4.4		$c^2+c^3+a^{12}+a^2+f^2$	$a^2+a^7+a^{12}+a^2$	B群6類		AZ 49
253	H Y 2	1次	13.5	4.5		$e^2+f^2+a^2$	$a^2+a^2+a^2$	B群10類		AZ 23
254	H Y 2	1次	12.0	4.6		$c^2+c^3+a^{12}+f^2$	$f^2+a^{12}+a^2$	B群9類		
255	H Y 2	1次	19.9	—	—	d^1+f^2	$d^2+b^2+f^2$	F群3類		
256	H Y 2	1次	3.6	11.4	6.7	$d^2+d^3+f^2$	$b^2+b^2+f^2$	F群1類		AZ 9
257	H Y 2	1次	13.2	11.1	7.0	d^1+f^2	$b^2+b^2+f^2$	F群1類		AZ 66
258	H Y 2	1次	14.0	9.9	6.5	$d^2+d^3+f^2$	$b^2+b^2+f^2$	F群1類		
259	H Y 2	1次	(14.0)	11.0	6.0	$d^2+d^3+f^2$	$c^2+c^2+f^2$	F群1類		AZ 14
260	H Y 2	1次	14.6	—	—	$f^2+a^7+a^2$	$c^2+c^3+d^1+a^2+d^2+f^2$	G群2類		
261	H Y 2	1次	18.2	12.6	7.0	$d^1-d^2+f^2$	$f^2+b^2+b^2$	G群3類		
262	H Y 3	1次	21.7	15.2	6.5	$d^1+d^2+f^2$	$f^2+b^2+b^2$	G群3類		
263	H Y 2	1次	—	—	9.8	d^1+f^2	d^2+d^2	F群3類		
264	H Y 2	1次	24.9	27.4	8.2	$d^1+d^2+f^2$	$e^2+a^2+c^2+a^2+f^2$	J群4類		
265	H Y 2	1次	25.0	26.3	9.0	d^1+f^2	$a^2+b^2+b^2+f^2$	J群4類		AZ 22
266	H Y 2	1次	18.2	30.5	7.2	$d^1+d^2+f^2$	$d^2+b^2+b^2+f^2$	F群2類		AZ 19
267	H Y 7	1次	17.5	26.4	7.3	$d^1+d^2+f^2$	$d^2+b^2+b^2+f^2$	F群2類		
268	S N - 8 F	1次	10.4	4.4		$a^2+a^2+d^3+a^{12}$	$a^2+a^7+a^2+a^{12}$	A群3類		

(3) 出土土器の特徴

今回検出された出土土器を分類した結果からA群土器の塊形土器からK群土器の片口壺までの11群、54類に細分している。この中で、塊（壺）形土器の中には須恵器壺を模倣した塊類が数多く認められ、A群3類、4類、5類、B群3類、4類、5類の6形態が顕著であった。棱が不明瞭で未発達なA群6類、B群6類～8類は忠実に模倣する形態が崩れる段階の塊とみられる。塊（壺）の模倣形態が急速に変化するのは6世紀中葉頃からであり、本遺跡の年代的位置付けを考える上での基準となるものである。また、調整手法の多くにのハケメを施すのが特徴で、等に塊形土器、高壺は福島県以西には認められなく、地方色の強い調整手法と言える。さらに、注目されるのは、塊形土器の内外面の一部に漆を付着する例が半数近く認められ、大半は意図的に筆等で施こされたものであり、この様な例は他に存在しないものである。

5.まとめ

第2次調査は1次調査の東側に位置する河川状遺構を発掘したものであり、多量の土器が旧河川の岸よりにまとまって認められた。この河川の西側には3期に重複する7棟の堅穴住居と土壙が台地に確認されている。今回の河川内の多量の遺物は台地に営まれた集落の人々によって、投棄されたものであり、土器以外にはほとんど検出されなかった。検出された土器の大半は塊形土器、高壺を主に小型土器、壺等と供膳形態が多く、塊、高壺の半数に漆を意図的に施したのも含まれることから祭祀の要素が強いものと推測する。

集落も遺構の吟味から同一時期に営まれたものは2棟ないし3棟であり、通常の集落跡とは異なることは言うまでもない。上新田A遺跡は約200基の古墳が群集する戸塚山古墳に隣接することを考慮すれば、戸塚山古墳群に関連する祭祀集落跡とみられる。出土土器は塊の形態から古墳時代後期の6世紀中葉から同後半に位置付けられ、東北南部の編年で引用式の仲間に併行するものと考えられる。米沢市内ではこれまでに6世紀代の遺跡は発見されておらず、戸塚山古墳群との係わりも含め、米沢盆地の古墳の発展期を知る上で重要な手掛りを得たものと言える。

参考文献

- 菊池政信他 米沢市埋蔵文化財調査報告書第17集『上浅川遺跡』（1986） 米沢市教育委員会
手塚 孝 米沢市埋蔵文化財調査報告書第21集『比丘尼平遺跡』（1987） 米沢市教育委員会
菊池 政信 米沢市埋蔵文化財調査報告書第35集『上新田遺跡』（1992） 米沢市教育委員会

写 真 図 版

第一回版 上新田A遺跡第1次調査の発掘(一)



▲遺構全景（空中写真）



▲HY2・HY3・HY55完掘状況



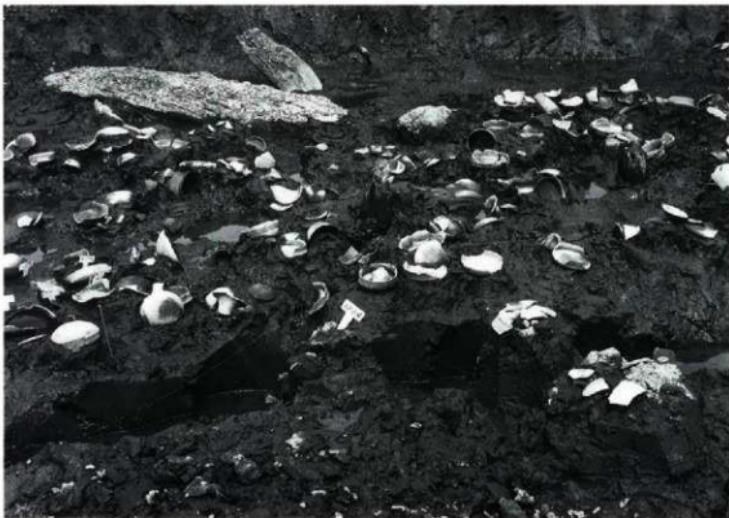
▲調査全景（西から望む）



▲調査区全景（東から望む）



▲SNセクション状況



▲SNI遺物出土状況



▲SNI杭検出状況（北から望む）



▲SNI杭検出状況（南から望む）

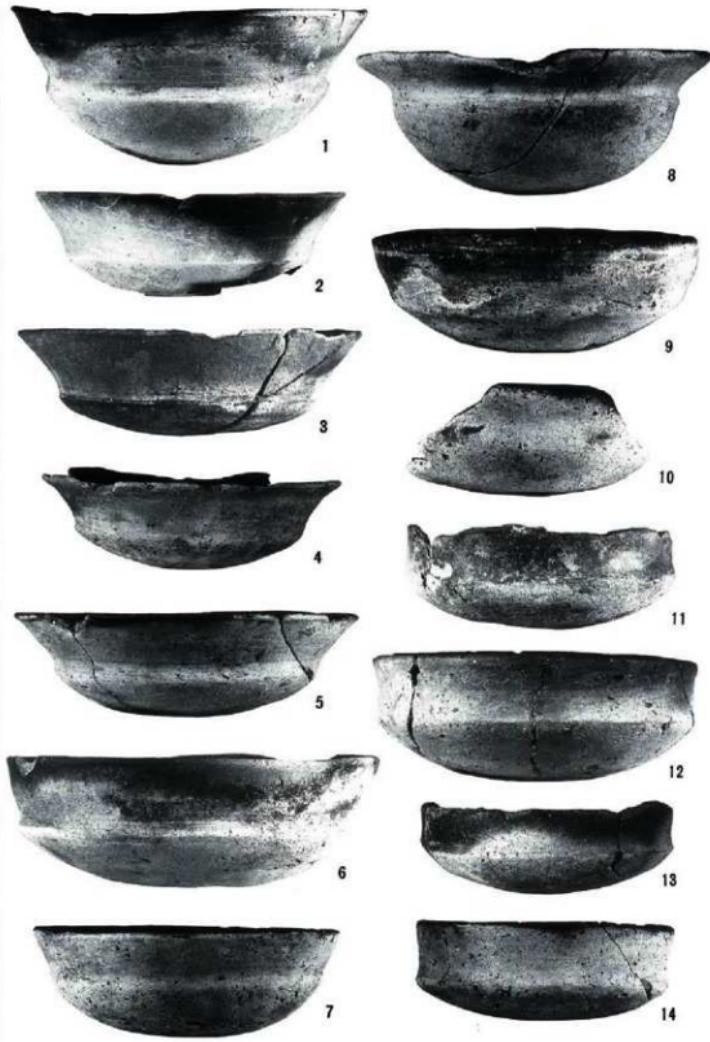


▲SNI出土状況

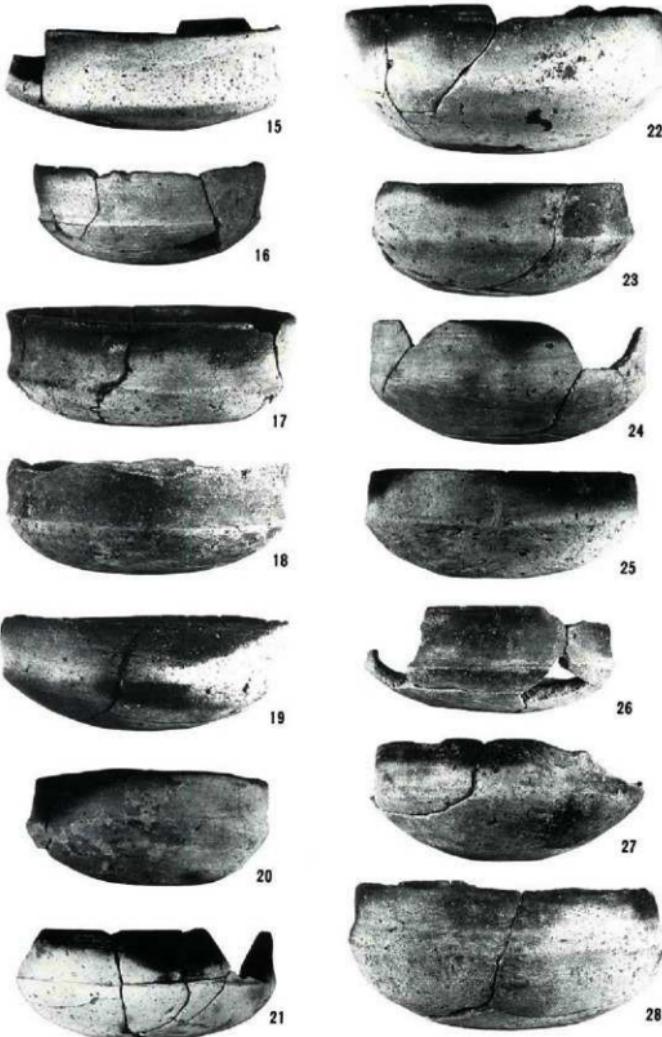


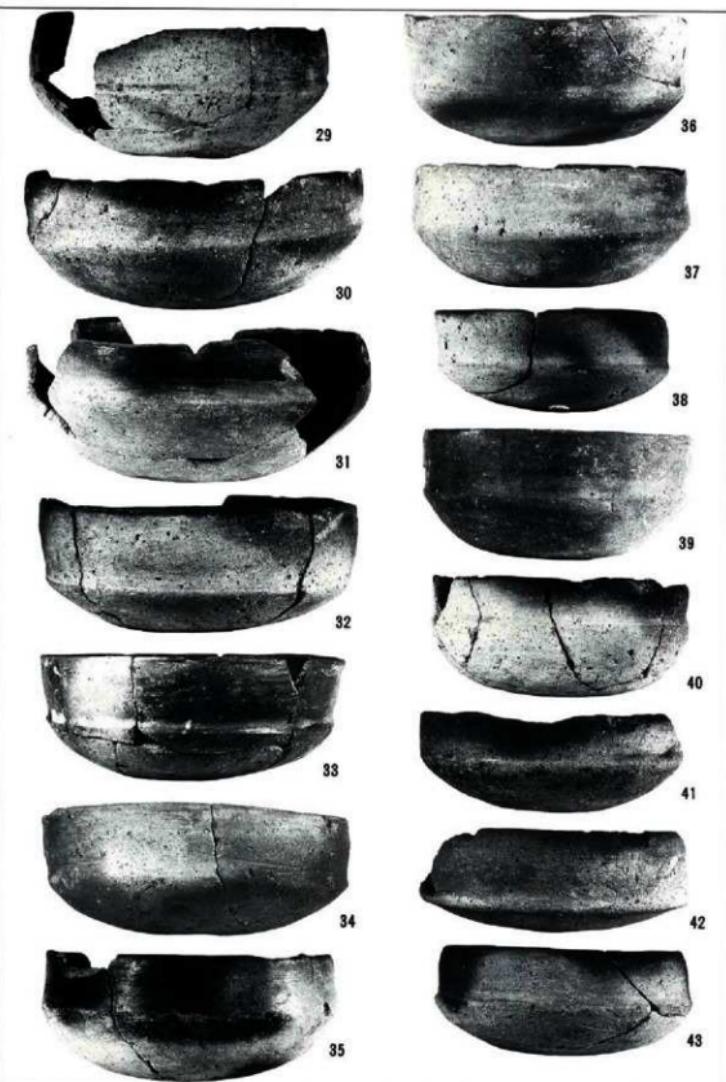
▲SNI出土状況

第六図版
上新田A遺跡SN-1出土の土器(一)

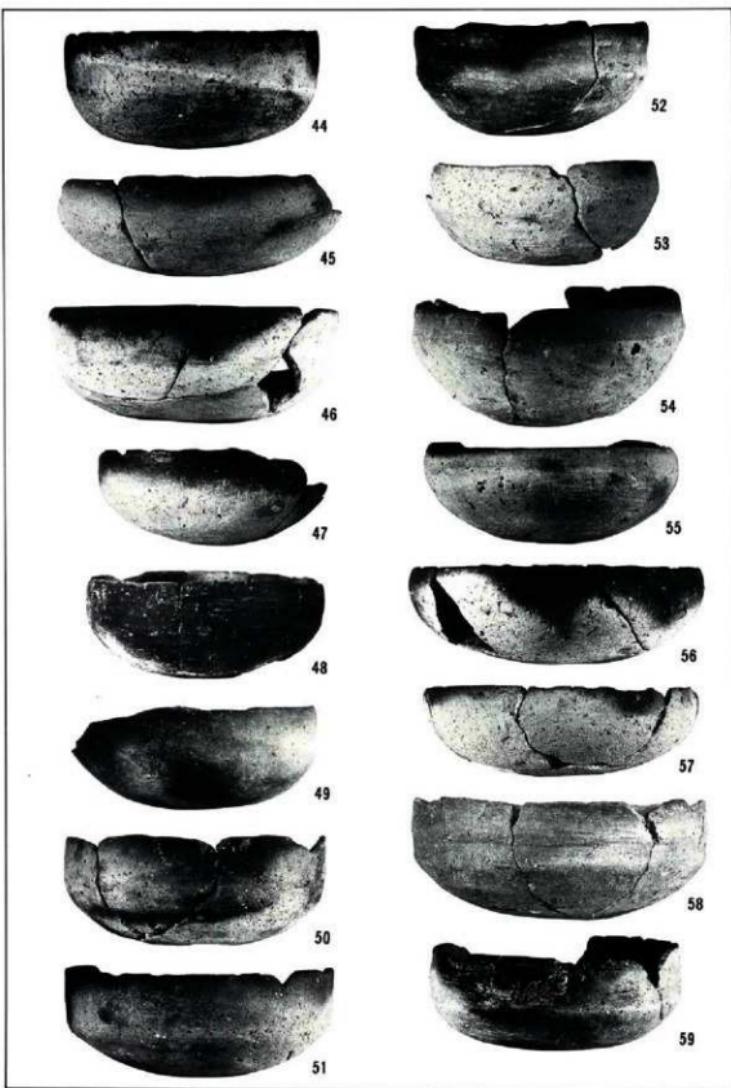


第七図版 上新田A遺跡SN-I出土の土器(2)

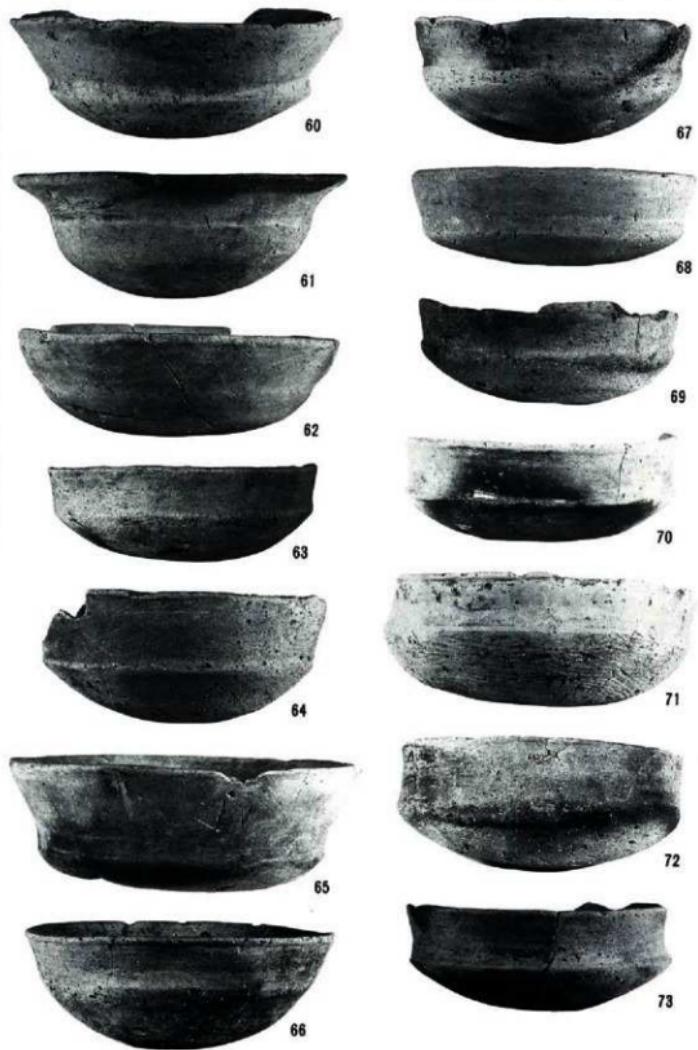




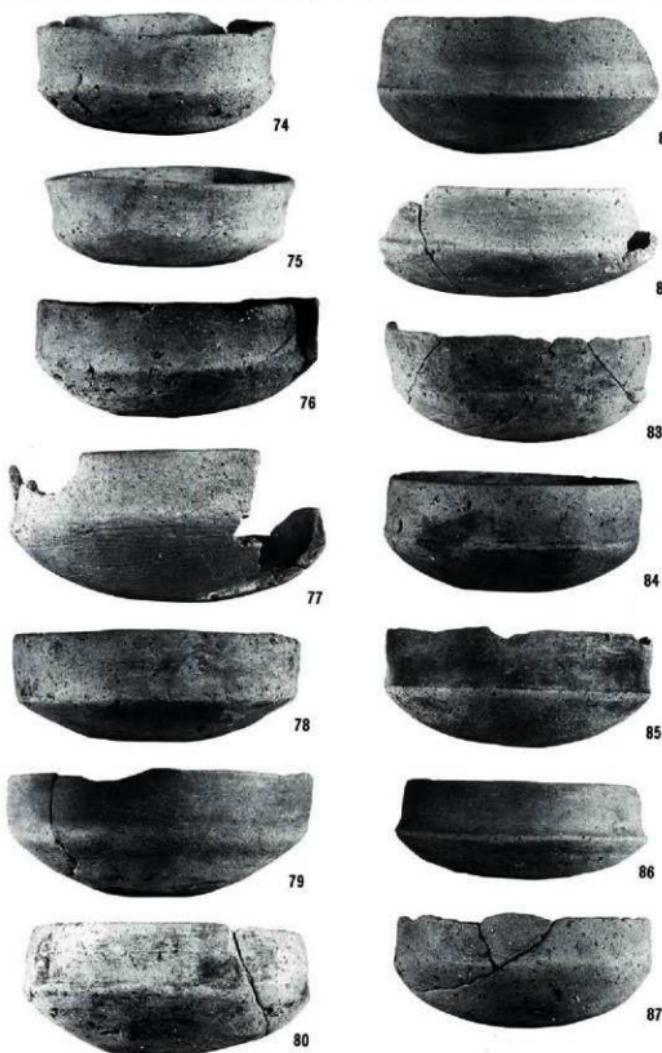
第九図版 上新田A遺跡SN-I出土の土器(4)



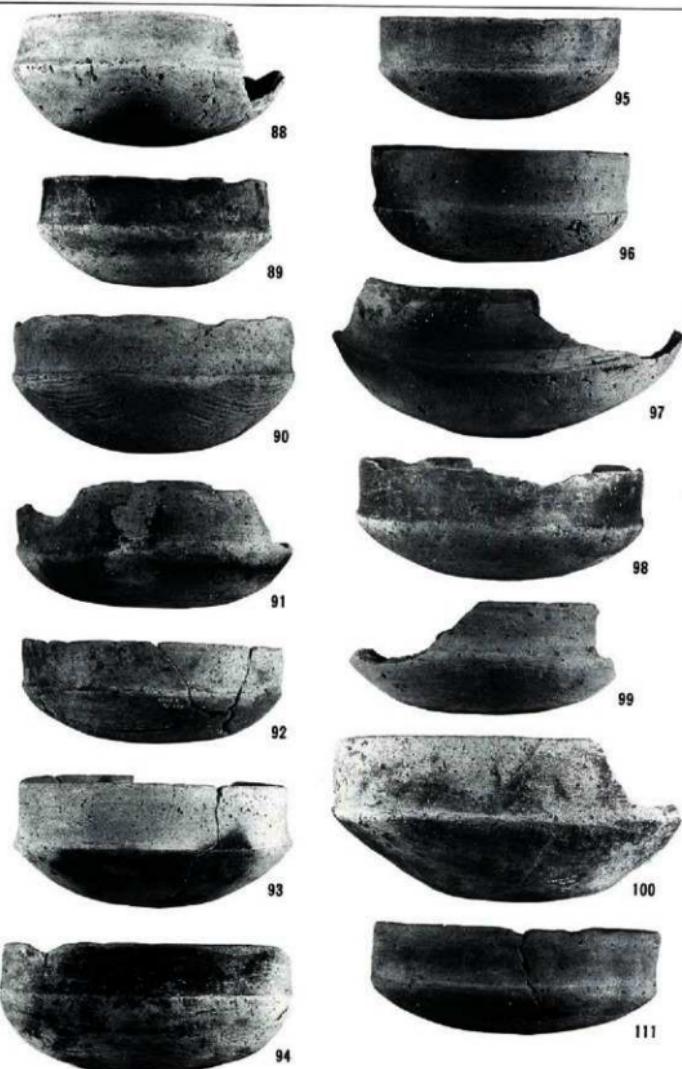
第十図版
上新田A遺跡SN-1出土の土器(5)



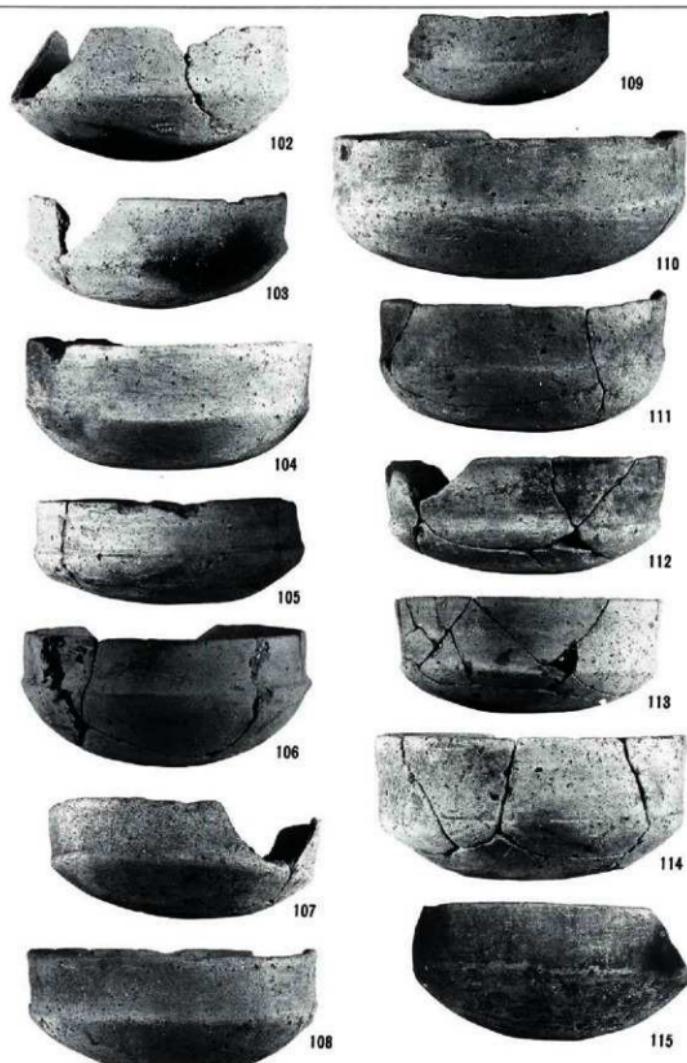
第十一図版 上新田A遺跡SN-1出土の土器(6)

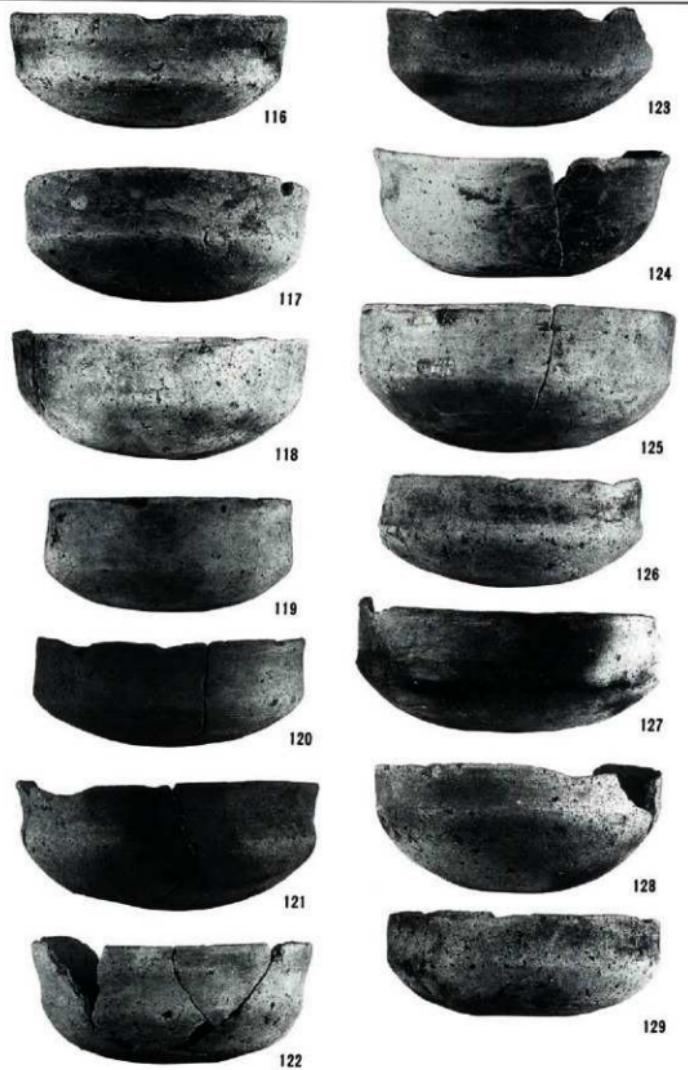


第十二図版
上新田A遺跡SN-1出土の土器(7)

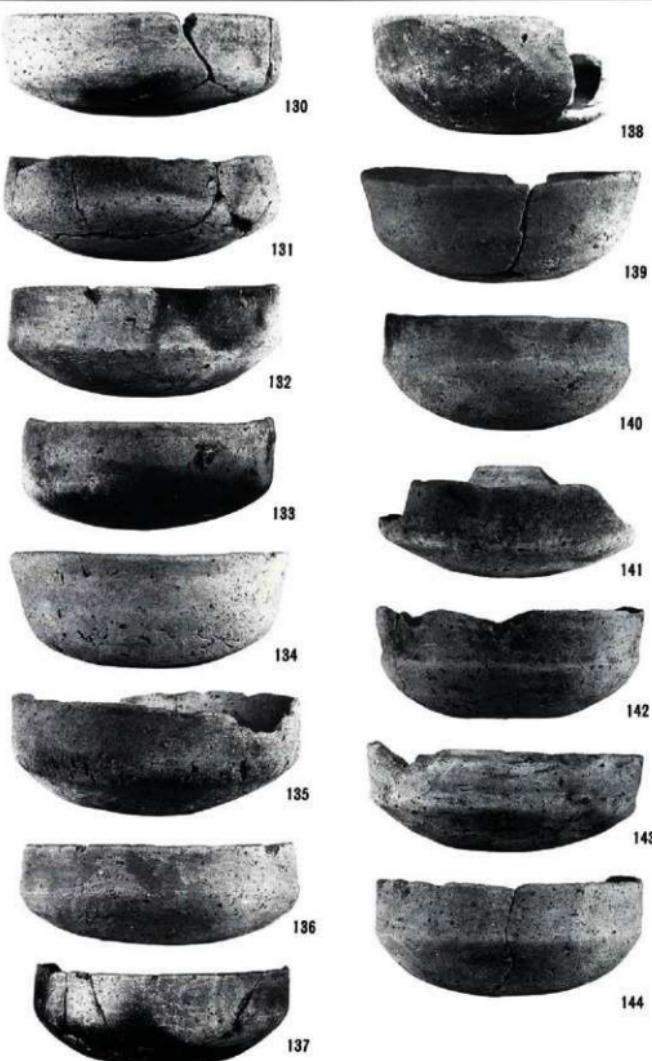


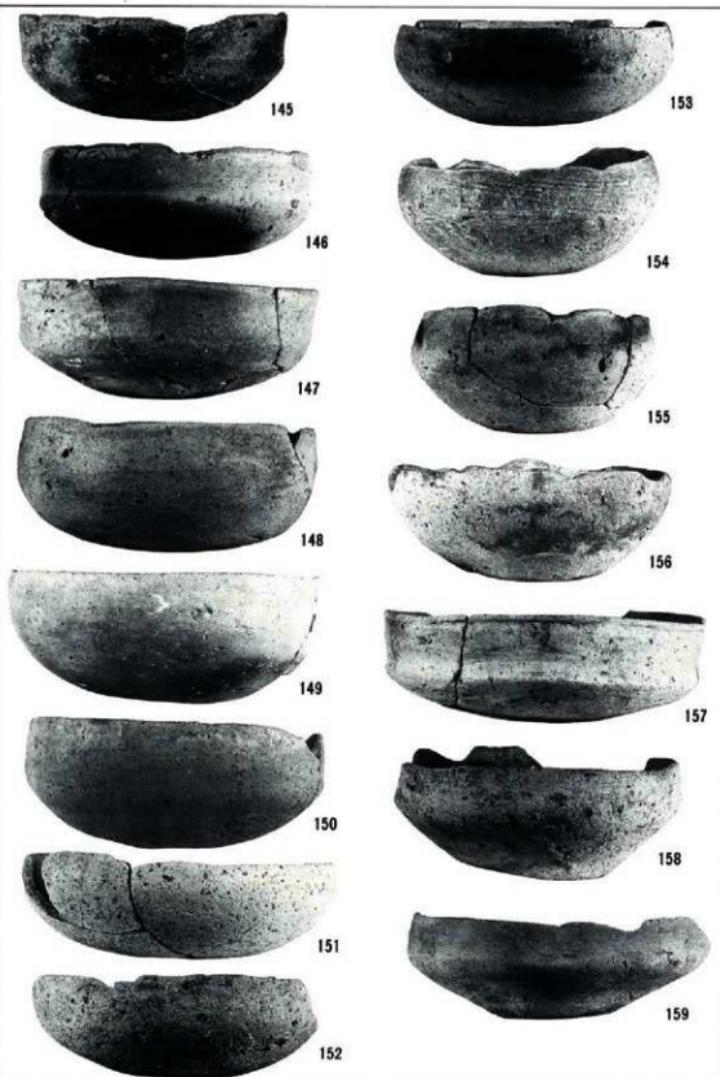
第十三図版 上新田A遺跡SN-I出土の土器(8)

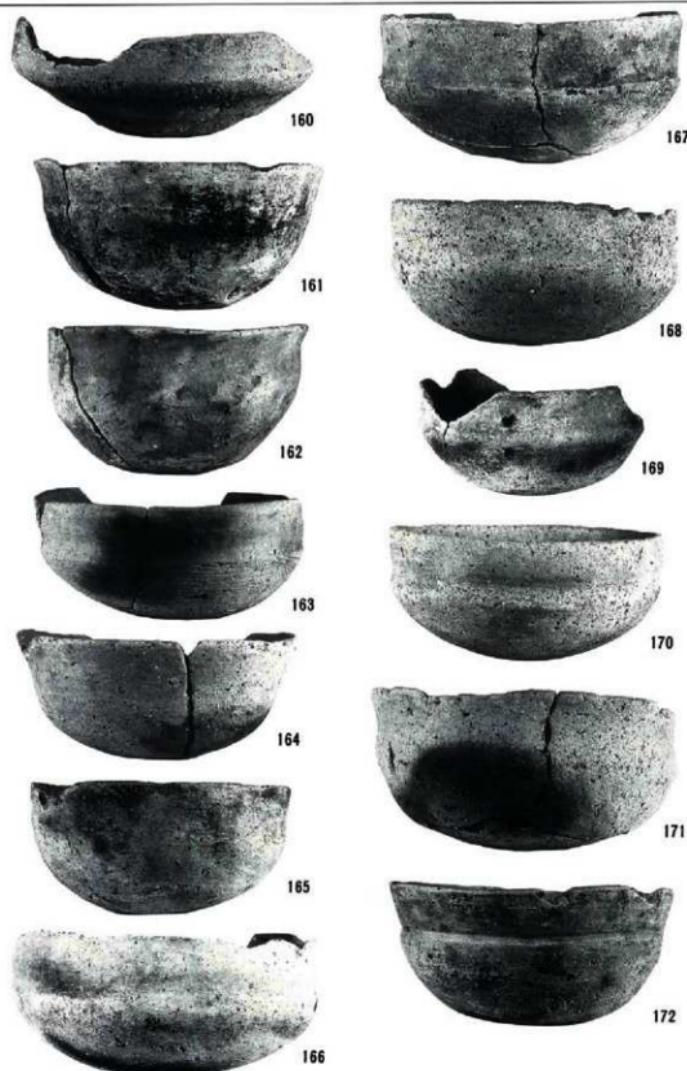


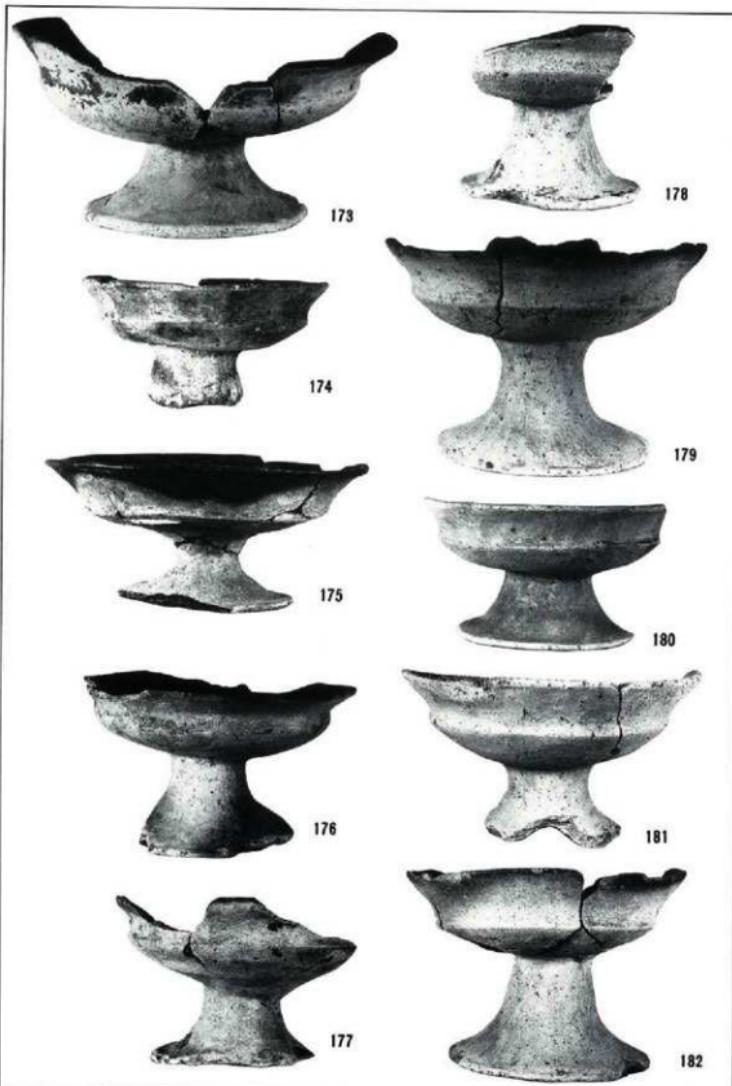


第十五図版 上新田A遺跡SN-1出土の土器(10)



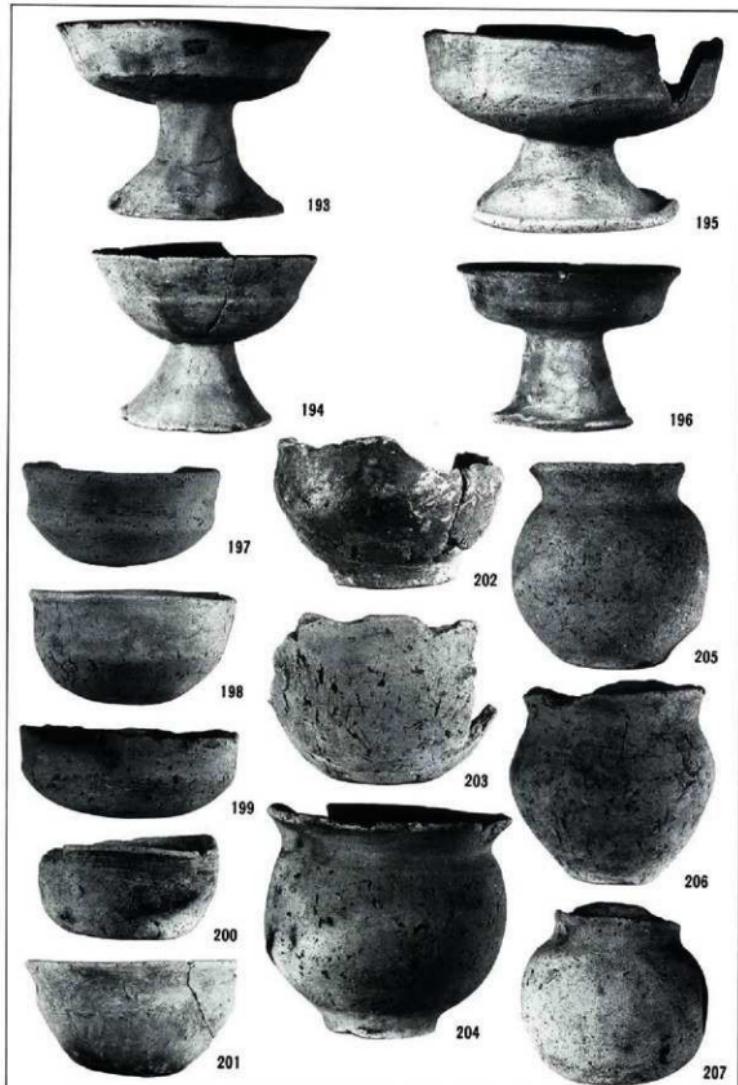


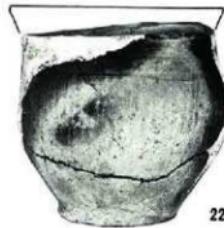
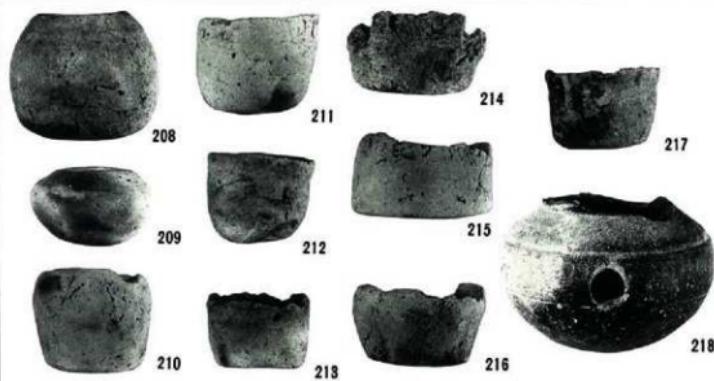




第十九圖版 上新田A遺跡SN-I出土の土器(4)









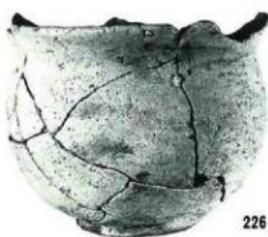
223



224



225



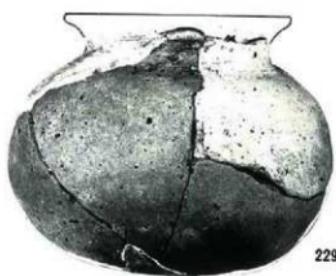
226



228



227



229



231



230



233



232

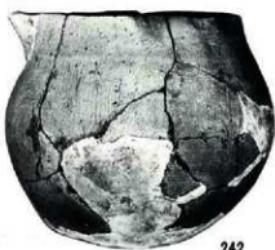


234

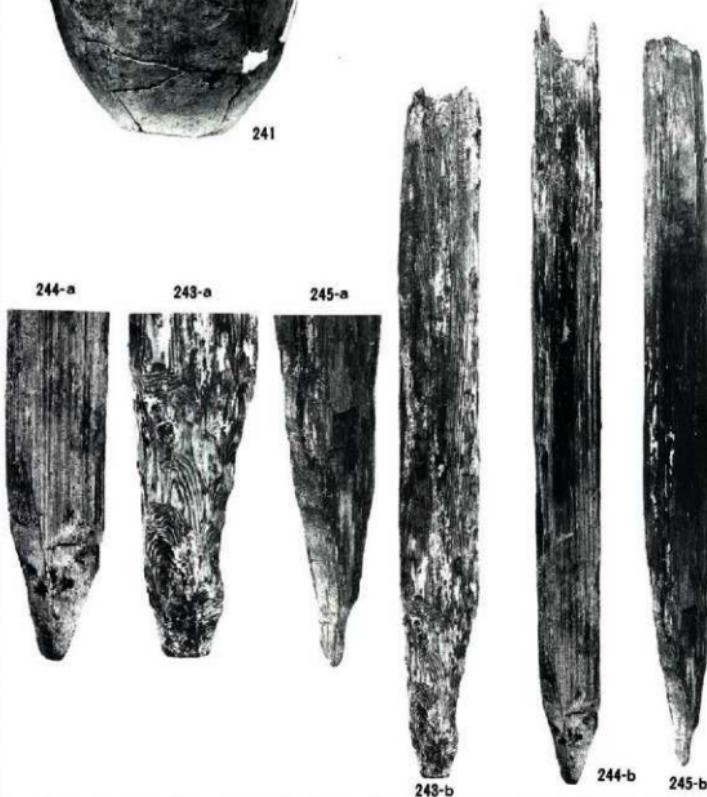


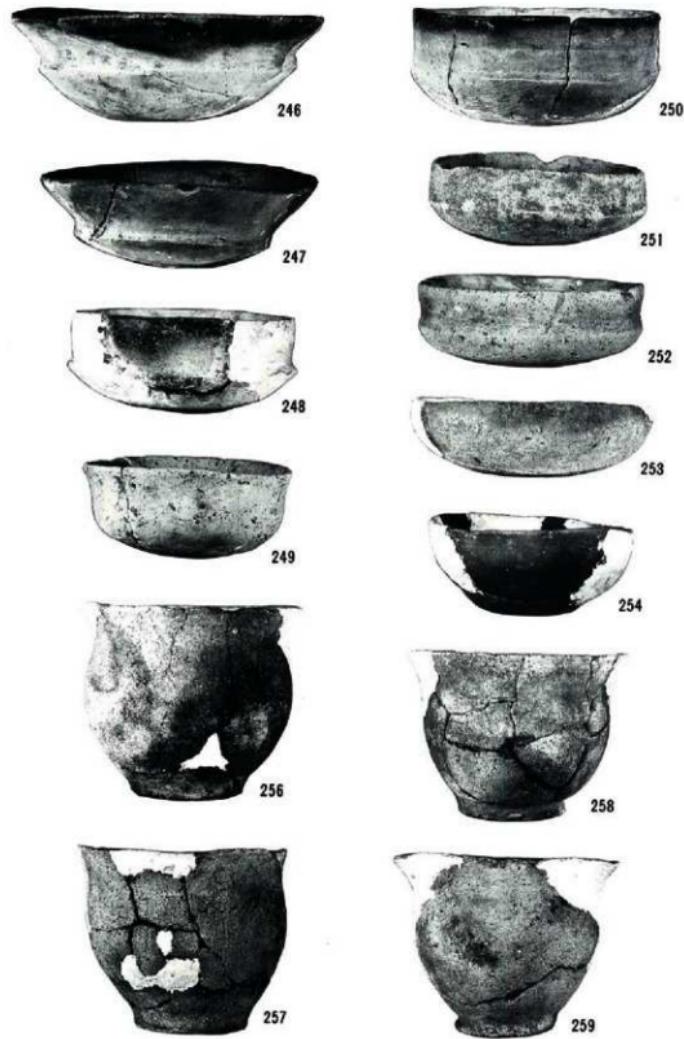


241



242





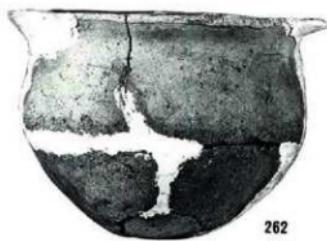
第二十七圖版 上新田A遺跡堅穴住居跡出土の土器(2)



260



261



262



263

第二十八図版 上新田A遺跡堅穴住居跡出土の土器(3)



264



265



266



267

米沢市埋蔵文化財調査報告書第39集

上 新田 A

上新田A遺跡発掘調査報告書 第2集

平成5年3月25日印刷

平成5年3月30日発行

発行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1番55号
TEL(0238)22-5111(内線7504)

印刷 永井印刷
米沢市下花沢二丁目1-16
TEL(0238)23-0693

